

科目名	教職入門		
担当教員名	宮川 保之、増田 吉史、狩野 浩二、高橋 京子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

教育職員免許法に定められた教職科目である「教職の意義等に関する科目」として開設されます。

講義内容としては「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容（研修、服務、及び身分保障等を含む）」「進路選択に資する各種の機会の提供等」を含む講座です。

小学校教員を目指す1年生（児童教育学科）前期のみなさんと共に、教職科目のもっとも最初の学修内容として、「教師の仕事とは何か」ということを、さまざまな角度から学修することになります。

この科目を勉強したあと、教育の原理原則に関する科目（教育学概論）、教育の社会的事項に関する科目（学校関係法規）、教育の心理に関する科目（教育心理学）を学ぶことになります。

教職の基礎理論についての理解を深めること、教員や学校を取り巻く実情についての理解を深めること、受講生同士が討論したり、発表したり、その内容をもとに新たな課題を追求したりすることができるようになること、などがねらいです。

内容

以下、取り上げる項目を挙げておきます（順不同）。

1. 教師の仕事とは
2. 教員免許制度
3. 教員の養成制度
4. 教員の採用
5. 女教師論
6. 学校とは
7. 学校と家庭
8. 学校と地域
9. 学級と学級経営
10. 授業の役割
11. 生徒指導の役割
12. 学校をめぐる法律・規則
13. 教師の職場としての学校
14. 教師の研修
15. まとめ

評価

講義の際に書いてもらう学習票（20点）と、最終試験（80点）を総合して、単位を認定します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しません。プリントなどを随時配布します。

【推薦書】斎藤喜博編 『島小の女教師』 明治図書出版

斎藤喜博 『授業 子どもを変革すること（新装判）』 国土社

斎藤喜博 『君の可能性』 ちくま文庫

【参考図書】教室で随時紹介します。

科目名	教育学概論		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に挙げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義を行ないます。

これから4年間にわたって教職科目を受講していく、もっとも最初の1年生後期に「教育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。1年の前期に学修した「教育者論」に続いて、先生になるための勉強をすることになります。

講義では、「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目にしたがって取り上げます。

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基本事項に関する理解を深めること、受講生同士が討論しあったり、課題を追究したり、発表しあったりすることができること、テキストをもとに自己の課題を認識し、その内容を深めたり、研究したりすることができること、などがねらいです。

内容

以下、講義内容を項目ごとに書いておきます (順不同)。

テキストの構成とほぼ重なっています。

1. 学ぶことと教えること
2. 育つことと育てること
3. 学校の登場
4. 近代学校の性格
5. 日本の学校
6. 学力とは何か
7. 教科と道徳教育
8. 教育の内容と方法
9. 教育評価
10. 学校の可能性
11. 青年の教育
12. 生涯学習と社会教育
13. 子どもの権利とは何か
14. 十文字学園の創設と近代女子教育の流れ
15. まとめ

評価

講義で毎回書いてもらう小レポート (20点)、試験・レポート等 (80点) などを総合して評価します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【使用テキスト (教科書)】田嶋一他著 『やさしい教育原理 (新版)』 有斐閣アルマ

【推薦書】 斎藤喜博 『授業入門（新装判）』 国土社
ルソー 『エミール（改版）上』 岩波文庫
シング 『狼に育てられた子』 福村出版

【参考図書】 テキストの参考文献の他、教室で紹介します。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	学校関係法規		
担当教員名	黒瀬 任通、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、児童教育学科の学生にとっては、学科専門必修科目である。
また、教員免許を取得するためにも必修科目である。

科目の概要

基本的な学校関係法規について扱う中で、わが国の学校教育についての理解を深めるとともに、近年の教育改革の動向についても考察していく。

学修目標

- 1 授業ごとに、ノートにまとめたり、考えを記述したりする。
- 2 「教育の基礎理論に関する科目」として、学校教育に関する基本的な法と制度を理解する。

内容

1	教育の目的及び理念等に関する事項、及び法規
2	教育の実施に関わる基本的なこと等に関する事項、及び法規
3	学校の種類・設置等に関する事項、及び法規
4	教育行政機関の仕組み等に関する事項、及び法規
5	学校教育の目的・目標等に関する事項、及び法規
6	学習指導要領等に関する事項、及び法規
7	教育課程の編成等に関する事項、及び法規
8	教科書（教科用図書）等の教材に関する事項、及び法規
9	教職員の組織・職務等に関する事項、及び法規
10	教職員の人事・サービス等の特例に関する事項、及び法規
11	就学・入学等に関する事項、及び法規
12	学級編制に関する事項、及び法規
13	保健・安全・給食等に関する事項、及び法規
14	学校運営等に関する事項、及び法規
15	まとめ

評価

授業への取り組み（小まとめ・小テスト等）60点、課題レポートなどの提出物40点、などにより総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『必携 小六法』 杉原 誠四郎 監修 共同出版

『解説 教育六法』 解説教育六法編集委員会 三省堂

『教育法規便覧』 窪田真二・小川友次 編 学陽書房

科目名	教育課程論		
担当教員名	狩野 浩二、津吹 卓、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。

小学校教員を目指すみなさんが2年生後期に受講し、これから勉強していく各教科（国語・算数など）、領域（道徳・特別活動など）等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることとなります。1年生で学習する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「小学校教科教育科目」「教育実習」を学んでいくこととなります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

1. これからの時代における教育課程
2. 教育の目的と方法
3. 教育方法の基礎理論
4. 学習理論の展開
5. 問題解決学習の方法
6. 学習形態と学習指導
7. 教育課程の編成
8. 学習指導要領と教育課程
9. 学習指導要領の変遷
10. 生活科と理科における内容構成
11. 現行学習指導要領の特徴
12. 生活科と社会科における内容構成
13. 授業における教師の課題 ゆさぶり
14. 授業における教師の課題 誤答
15. まとめ

評価

個別学習・組織学習票（20点）と課題研究（80点）を総合して評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】松田稔樹, 星野敦子, 狩野浩二, 津吹卓『自ら学び考える教職教養 教育課程・制度・法規』学文社、その他配付資料を使います。

【推薦書】 斎藤喜博 『授業の展開（新装判）』 国土社

横須賀薫 『授業の深さをはかるもの』 教育出版

箱石泰和編 『授業 = 子どもとともに探求する旅』 教育出版

【参考図書】 横須賀薫編 『授業研究用語辞典』 教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	初等国語科教育		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校「国語科」について教科の特性や指導すべき内容、方法などを概観する。

小学校学習指導要領から教科の目標・内容など教科の特性を知る。また、指導案の書き方や実施の授業場面での留意事項など具体的な例を挙げながら学ぶ。

小学校での国語科の位置づけを知り、具体的な実践力を身につける。

内容

1	ガイダンス (ことばの学びとは)
2	小学校学習指導要領における国語科の目標、領域
3	国語科教育の変遷と現在
4	話すこと・聞くこと
5	「伝え合う」力を育てる
6	「読む力」をつける
7	「読む力」をつける
8	「読む力」をつける
9	「書く力」をつける
10	「書く力」をつける
11	言語活動
12	伝統的な言語文化
13	国語教室の実際
14	国語教室の実際
15	「ことば」の学習を支えるもの、まとめ

評価

毎回のミニレポート (6 割)、最終レポート (4 割)、模擬授業などの参加状況を加点する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

小学校学習指導要領解説 (総則編)、小学校学習指導要領解説 (国語編) 東洋館出版社

科目名	初等算数科教育		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「算数」の上に立ち、小学校低学年の算数科目標、内容、指導方法等を理解することにねらいを置く。小学校高学年は「教材研究法」や「授業研究法」で扱い、発展していく。

算数科 (小学校低学年) の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。児童の主体的な学びを促す指導法のあり方を理解し、教材の内容の分析、指導法の工夫等での優れた実践を参考に指導計画を作成し、授業のあり方を考える。

実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行う。行った模擬授業に対し指導を行うとともに学生による相互評価を行う。

内容

1	ガイダンス (第 1 学年の指導のポイント)
2	算数科の指導内容と指導上の留意点 (第 1 学年の指導計画と指導案)
3	年間計画と学習指導案の書き方 (第 2 学年の指導計画と指導案)
4	図形の模擬授業とその評価 (第 1 学年「かたちあそび」)
5	数量関係の模擬授業とその評価 (第 2 学年の指導のポイント)
6	数と計算の模擬授業とその評価 (第 2 学年「100より大きい数」)
7	量と測定の模擬授業とその評価 (第 2 学年「長さをはかる」)
8	教材研究と学習指導案の作成 (第 2 学年「かけざん」)
9	教育機器を利用した授業とその評価 (第 3 学年の指導のポイント)
10	数と計算の模擬授業とその評価 (第 3 学年「わりざん」)
11	量と測定の模擬授業とその評価 (「重さ」)
12	教育機器を利用した授業とその評価 (「時刻と時間」)
13	小学校低学年の算数科指導における留意点
14	小学校高学年の算数科指導における留意点
15	振り返りとまとめ

評価

指導計画 学習指導案 模擬授業 (100%) で評価。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】 (1) 小学校学習指導要領解説算数編 文科省著 (東洋館出版社)

(2) 学力向上フロンティアスクールの実践 9 「算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3 年実践編」明治図書

【推薦書】 (1) 学力向上フロンティアスクールの実践 10 「算数科コース別指導による確かな学び、4 - 6 年実践編」明治図書

(2) 学力向上フロンティアスクールの実践 8 「算数科コース別指導による確かな学び、理論編」 明治図書

科目名	初等理科教育		
担当教員名	津吹 卓、井口 磯夫、塚田 昭一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

理科を教えるとはどういうことなのかを、実験の模擬授業を通して体験を通して学ぶ。

科目の概要

1. 小学校の理科の中から班で行いたい実験を選ぶ。
2. 授業案を作成し、予備実験を行い授業の準備をする。
3. 他の学生に模擬授業を行い、ワークシートに理科および授業に対するコメントをもらう。
4. それをもとに自分たちの授業に対するレポートを提出する。
5. 授業についてのディスカッションを行う。
6. これら一連の活動を通して通して体験的に学び考え、授業とは何かに気づき自分の授業のレベルアップを図る。

学修目標

理科の授業、とくに実験では予想外のことが起きるのが普通である。その状態を体験しながら、理科とは、そして子どもに教えるとはどういうことなのかに気づき、今まで思っていたことから脱皮し、自分の意識改革を行う。

内容

1	講義の主旨を説明し、班による実験のテーマを考える
2	話し合いによる実験のテーマを決定
3	実験1
4	実験2
5	実験3
6	実験4
7	実験5
8	実験6
9	実験7
10	実験8
11	実験9
12	実験10
13	実験11
14	実験12
15	まとめ

評価

各実験のワークシート（60％）、模擬授業のレポート（20％）、最終試験（20％）を総合して評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編

科目名	初等理科教育		
担当教員名	津吹 卓、井口 磯夫、塚田 昭一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

理科を教えるとはどういうことなのかを、実験の模擬授業を通して体験を通して学ぶ。

科目の概要

1. 小学校の理科の中から班で行いたい実験を選ぶ。
2. 授業案を作成し、予備実験を行い授業の準備をする。
3. 他の学生に模擬授業を行い、ワークシートに理科および授業に対するコメントをもらう。
4. それをもとに自分たちの授業に対するレポートを提出する。
5. 授業についてのディスカッションを行う。
6. これら一連の活動を通して通して体験的に学び考え、授業とは何かに気づき自分の授業のレベルアップを図る。

学修目標

理科の授業、とくに実験では予想外のことが起きるのが普通である。その状態を体験しながら、理科とは、そして子どもに教えるとはどういうことなのかに気づき、今まで思っていたことから脱皮し、自分の意識改革を行う。

内容

1	講義の主旨を説明し、班による実験のテーマを考える
2	話し合いによる実験のテーマを決定
3	実験1
4	実験2
5	実験3
6	実験4
7	実験5
8	実験6
9	実験7
10	実験8
11	実験9
12	実験10
13	実験11
14	実験12
15	まとめ

評価

各実験のワークシート（60%）、模擬授業のレポート（20%）、最終試験（20%）を総合して評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編

科目名	初等体育科教育		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

小学校教諭の免許を取得するために必要となる必修科目で、体育科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次履修の「人間と運動」、2年後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

科目の概要

小学校学習指導要解を基盤にして、体育が取り扱う学習内容の理解と実際の授業づくりの要点および授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。さらに、学習指導案（略案）作成の基本を学修させる。実際の授業では、題材とする運動を身体感覚で理解することを重視するため、実技を交えて活動を展開したり、受講生が指導役を担う模擬授業を実施する。

学修目標

小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション：班づくり、よい体育授業を映像から学ぶ（その1）
2	体育科の授業づくり （小学校体育科の目標・内容・その取扱いについて）
3	体育科の授業づくり （授業の流れと授業運営委、教材づくりの基本を学ぶ）
4	保健内容の解説とポスター発表の準備活動、よい体育授業を映像から学ぶ（その2）
5	保健内容ポスター発表（その1）、よい体育授業を映像から学ぶ（その3）
6	保健内容ポスター発表（その2）、よい体育授業を映像から学ぶ（その4）
7	運動領域別の指導法 ：器械運動・体づくり運動
8	運動領域別の指導法 ：ボール運動（プレルボール）、なわとび運動
9	運動領域別の指導法 ：陸上運動・鉄棒運動
10	保健内容のポスター発表（その3）、模擬授業の進め方と解説について
11	指導案作成のまとめ、授業観察の方法の理解（授業評価を含む）
12	模擬授業
13	模擬授業
14	模擬授業
15	まとめ

評価

発表活動30点、レポート30点、試験30点、通常の授業への取り組み（意欲、関心）10点による評価を行い、60

点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）
小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年」 光文書院
「新版 小学保健 見つけよう健康 5・6年」 光文書院
- 【推薦書】 高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科目名	初等体育科教育		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教諭の免許を取得するために必要となる必修科目で、体育科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次履修の「人間と運動」、2年後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

科目の概要

小学校学習指導要解を基盤にして、体育が取り扱う学習内容の理解と実際の授業づくりの要点および授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。さらに、学習指導案（略案）作成の基本を学修させる。実際の授業では、題材とする運動を身体感覚で理解することを重視するため、実技を交えて活動を展開したり、受講生が指導役を担う模擬授業を実施する。

学修目標

小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション：班づくり、よい体育授業を映像から学ぶ（その1）
2	体育科の授業づくり （小学校体育科の目標・内容・その取扱いについて）
3	体育科の授業づくり （授業の流れと授業運営委、教材づくりの基本を学ぶ）
4	保健内容の解説とポスター発表の準備活動、よい体育授業を映像から学ぶ（その2）
5	保健内容ポスター発表（その1）、よい体育授業を映像から学ぶ（その3）
6	保健内容ポスター発表（その2）、よい体育授業を映像から学ぶ（その4）
7	運動領域別の指導法 ：器械運動・体づくり運動
8	運動領域別の指導法 ：ボール運動（プレルボール）、なわとび運動
9	運動領域別の指導法 ：陸上運動・鉄棒運動
10	保健内容のポスター発表（その3）、模擬授業の進め方と解説について
11	指導案作成のまとめ、授業観察の方法の理解（授業評価を含む）
12	模擬授業
13	模擬授業
14	模擬授業
15	まとめ

評価

発表活動30点、レポート30点、試験30点、通常の授業への取り組み（意欲、関心）10点による評価を行い、60

点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）
小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年
」 光文書院 「新版 小学保健 見つけよう健康 5・6年」 光文書院
- 【推薦書】 高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科目名	初等音楽科教育		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解した上で、初等教育者に必要な音楽科の教育内容・教材・指導法などについて学ぶことを目的とする。特に音楽の歴史・理論・表現を中心に音楽担当教育者として必要な基礎知識の修得と、具体的な指導の場面で実践的な力を身につける。

またその知識を生かして、小学校における音楽教育の指導力をたかめることを目指す。

内容

1	音楽教育とは？
2	小学校学習指導要領 音楽について
3	音楽の歴史
4	1年生の音楽 歌唱指導 音楽理論 (譜表・派生音について)
5	1年生の音楽 楽器・鑑賞指導 音楽理論 (和音について)
6	2年生の音楽 歌唱指導 音楽理論 (音程について)
7	2年生の音楽 楽器・鑑賞指導 音楽理論 (調について)
8	3年生の音楽 歌唱指導 音楽理論 (発想記号について)
9	3年生の音楽 楽器 (リコーダー)
10	4年生・5年生の音楽 歌唱指導
11	6年生の音楽 歌唱指導
12	中学年の合奏指導
13	高学年の合奏指導
14	中・高学年の鑑賞指導
15	まとめ

評価

毎回の課題 (40点)、試験 (50点)、通常の授業態度 (10点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト] 小学校「音楽」の1年生～6年生の教科書 教育芸術出版

[参考図書] 「音楽科指導書 音楽編」 (文部科学省) 「初等科音楽教育法」 (音楽の友社)

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

図画工作科の意義と役割について理解を深め、図画工作科教育に関する基礎的知識及び実践的スキルを身につけることを目標とする。図画工作科の教科としての性格、及び学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、教科の指導に必要な基礎的なスキルを養う。

内容

実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること（適宜・指示します）。なお天候状況などによって順番を変更しておこなうこともある。

1	オリエンテーション
2	美術教育の目的と性格、子どもの発達と造形表現
3	図画工作科の歴史的な変遷、図画工作科の目標及び内容
4	図画工作科の授業（1）造形遊び
5	図画工作科の授業（2）絵や立体、工作に表す活動
6	図画工作科の授業（3）絵や立体、工作に表す活動
7	図画工作科の授業（4）木工作演習1：のこぎり・糸のこ
8	図画工作科の授業（5）木工作演習2：のこぎり・糸のこ
9	図画工作科の授業（6）木工作演習3：のこぎり・糸のこ
10	図画工作科の授業（7）木版画
11	図画工作科の授業（8）木版画
12	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について1
13	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について2
14	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について3
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。

また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40%）により総合的に判断します。試験は行わない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版（平成20年度版）

〔推薦書〕福田隆真・茂木一司・福本謹一（編集）『改訂 美術科教育の基礎知識』建帛社

大橋功監修・編著『美術教育概論』日本文教出版

渡邊千恵子『小学校指導法 図画工作』玉川大学出版部

その他、適宜授業の中で紹介する。

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

図画工作科の意義と役割について理解を深め、図画工作科教育に関する基礎的知識及び実践的スキルを身につけることを目標とする。図画工作科の教科としての性格、及び学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、教科の指導に必要な基礎的なスキルを養う。

内容

実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること（適宜・指示します）。なお天候状況などによって順番を変更しておこなうこともある。

1	オリエンテーション
2	美術教育の目的と性格、子どもの発達と造形表現
3	図画工作科の歴史的な変遷、図画工作科の目標及び内容
4	図画工作科の授業（1）造形遊び
5	図画工作科の授業（2）絵や立体、工作に表す活動
6	図画工作科の授業（3）絵や立体、工作に表す活動
7	図画工作科の授業（4）木工作演習1：のこぎり・糸のこ
8	図画工作科の授業（5）木工作演習2：のこぎり・糸のこ
9	図画工作科の授業（6）木工作演習3：のこぎり・糸のこ
10	図画工作科の授業（7）木版画
11	図画工作科の授業（8）木版画
12	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について1
13	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について2
14	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について3
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。

また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40%）により総合的に判断します。試験は行わない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版（平成20年度版）

〔推薦書〕福田隆真・茂木一司・福本謹一（編集）『改訂 美術科教育の基礎知識』建帛社

大橋功監修・編著『美術教育概論』日本文教出版

渡邊千恵子『小学校指導法 図画工作』玉川大学出版部

その他、適宜授業の中で紹介する。

科目名	初等社会科教育		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、小学校教諭免許取得のための教科指導法の1つで、選択必修に位置づけられている。

教科としてどのような目標を持ち、社会科の各学年の内容をどのような順にどのような指導方法によって教科指導を進めるのか、その指導法について学修する科目である。

科目の概要

・小学校社会科の教材をを取り上げ、学生自らが探究し、それらの内容をどのようなねらい持ち、どのように児童に学習させていくか、教材を作成し、教材の在り方・資料の取り扱い等について検討し深める。

学修目標

・社会科の目標、各学年の目標・内容・取り扱い等についての理解を深め、授業実践に取り組める実践力を養う。

内容

1	ガイダンス
2	小学校3学年4学年5学年6学年の社会科の目標・内容・年間指導計画
3	小学校3学年4学年の社会科の内容 私たちのまち・くらしと人々の仕事・安全なくらしを守る
4	小学校3学年4学年の社会科の内容 住みよいくらしを支える・郷土の人々の願い・私達の埼玉
5	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と食料生産 私たちの生活と工業生産
6	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と情報 私たちの国土と環境
7	小学校6学年の社会科の内容 日本の歴史
8	小学校6学年の社会科の内容 わたしたちの生活と政治 世界の中の日本
9	小学校社会科の小単元の学習指導案の立て方
10	小学校社会科の1時間の授業のあり方 資料の作り方・活用の仕方 学習評価の在り方
11	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・活用する資料づくり(1)
12	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・活用する資料づくり(2)
13	社会科の模擬授業の実際(1)
14	社会科の模擬授業の実際(2)
15	社会科の模擬授業の実際(3) ・まとめ

評価

課題レポート・指導計画・指導案などの提出物60点 模擬授業等への取り組み40点、等を

総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編）平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 児童用教科書
- ・ 教科書の教師用研究物

科目名	初等生活科教育		
担当教員名	清水 一豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校学習指導要領に基づいて生活科の教科としての特性を理解する。また、授業力、授業イメージを高めるために指導案の作成や模擬授業として多様な学習活動を体験したりする。生活科の理解を深めるために、講義で取り上げる学習活動の課題については事前・事後の意欲ある取り組みが期待される。

内容

1	子どもの見ている世界 生活科の創設
2	生活科の目標・内容・評価
3	生活家における体験・表現・気づき・交流
4	単元の内容構成と年間指導計画
5	多様な学習活動の類型と特性
6	身近な自然にかかわる指導計画、学習指導案の作成
7	身近な自然の観察活動・表現活動
8	発見したこと、気づいたことの伝え合う活動
9	探検の指導計画、学習指導案の作成
10	身近な社会の探検活動
11	探検で発見したこと、気づいたことの表現活動
12	グループによる発表活動
13	成長・自尊感情を育てる学習活動
14	園児との交流活動のねらいと互惠性のある幼保小連携
15	生活科の特性を踏まえた指導、授業づくり、評価についてまとめ

評価

課題レポート・作品 50% 課題論文 50% 総合的に評価する

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校生活科教科書「せいかつ」上下 光村図書出版、小学校学
習指導要領解説 生活科編 文科省
【推薦書】新学習指導要領 ポイントと授業づくり「生活」 鹿毛・清水 東洋館
【参考図書】授業内で提示する

科目名	初等家庭科教育		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

小学校家庭科の学習内容をどのように指導すれば効果的かをこれまでの具体的な実践を交えて説明する。また、教科書の内容から調理実習や被服製作など実際に体験する機会もできるだけ盛り込んで指導し、指導の手がかりが持てるよう配慮する。また、家庭科の年間指導計画や学習指導案作りも行い、模擬授業の経験も取り入れるようにする。

内容

1 本授業のガイダンス

授業計画、準備するもの、評価など

2 家庭科の教科書を見て、5・6年生の2年間に授業で扱う内容を把握する。

児童の視点で教科書を見て気付いたことを話し合ってみる。

教師の視点で再度教科書を見てどのような働きかけができるかいくつかの事例について話し合う。

学習指導要領を見直し、どの教材がどういう形で取り上げられているか照合してみる。

3 指導法の研究

指導してみたい題材を見付け、指導案を書いてみる。

互いに発表し合って、よいところや問題点を話し合う。

代表が模擬授業を行い、授業の進め方の改善点を話し合う。

4 実技実習の指導法の研究

実技実習の指導法と注意点について、児童の活動の記録映像を基に話し合う。

基礎縫いを実習し、指導上の留意点について話し合う。

基礎縫いをを用いた作品作りの授業の指導案を作成する。

基礎縫いをを用いた作品作りを指導案に基づいて実際に行い、相互評価し合う。

ミシン縫いの基礎を実習し、指導上の留意点について話し合う。

～ ミシンと手縫いで小物を縫い、児童の視点で作品や授業の展開を検討する。

一食分の調理実習の指導計画を立て、指導上の留意点について話し合う。

評価

毎回の課題の記録やレポートで75%程度、作品や発表で25%程度を総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校家庭科教科書 東京書籍、小学校学習指導要領解説家庭編 文部科学省

【推薦書】子どものよさを活かす家庭科学習 勝田映子著 初等教育研究会・不昧堂出版、小学校学習指導要領の解説と展開家庭編 安彦忠彦監修・内野紀子編著 教育出版、できますか？教えられるか？家庭科の基本 流田直監修・亀井祐子・田中京子・勝田映子著 学研教育みらい、授業力UP家庭科の授業 鶴田敦子・伊藤葉子編 日本標準、作る手が子ども

たちを輝かす お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社

【参考図書】授業内で紹介する。

科目名	教材研究		
担当教員名	清水 玲子、廣坂 多美子、増田 吉史、津吹 卓 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

小学校教諭一種取得のための選択科目である。通年で小学校の教科をオムニバスで学ぶ。国語科、社会科、算数科、理科の4教科及び体育、音楽等の教材について内容や指導法なそ具体的に研究することを目的とする。繰り返し履修が可能である。

それぞれの教科の指導目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究を学ぶ。指導案を書き模擬授業をするなど、実践的に学ぶ。

内容

小学校で学習するそれぞれの教材について、領域、学年ごとに教材を選び、研究する。また、学習指導要領に示された指導事項と教科書教材についての関係を考察するなど、現場での教材研究のポイントを学ぶ。

必要に応じて、指導案を書いたり、資料を作成するなど実践的な学びを行う。発問や板書、評価などの指導技術など具体的な課題についてもそれぞれの教科特性に応じて学ぶ。

評価

課題に応じてレポートしたり、模擬授業に取り組んだりする。（4割）、授業について記述する。（3割）、最終レポート（3割）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説、（各教科の解説）（文部科学省）

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、増田 吉史、日出間 均		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは、音楽・図工・体育コースの授業の進め方について解説する。

科目の概要

少人数で学習する体制づくりのために、国語、算数、社会・理科、音楽・図工・体育の4コースに分かれて授業を進める。受講生はいずれかのコースを選択して履修することになる。音楽・図工・体育コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説など加えながら総合的に学修することをめざしている。

学修目標

表現活動を共通項とする音楽・図工・体育の3教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを具体的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の理解、模擬授業を実践できる指導技術の習得を目標とする。

内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究を深めるだけでなく、授業の進め方や展開法、子どもとの接し方（話術、表情）、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。また、このコースでは実技科目特有の技能や技術に関する指導ポイントやコツを共有化することを通して、受講生自身の技能レベルの向上もねらいとする。

実際の授業は3名の教員がオムニバス形式で担当し、前期15週・後期15週を以下のような授業計画で進める予定である。そして、音楽・図工・体育科における各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説、実技指導のポイントやコツの練習などを通して総合的に学修する。

前期 第1週：オリエンテーション

第2～5週：図工科に関する授業研究

第6～9週：体育科に関する授業研究

第10～14週：図工科に関する授業研究

第15週：まとめ

後期 第1～5週：オリエンテーション、音楽科に関する授業研究

第6～10週：体育科に関する授業研究

第11～14週：音楽科に関する授業研究

第15週：まとめ

評価

3教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」などを各30点で評価を行う。それに授業への取り組み（関心・意欲）の10点を加えて総合的に評価を実施する。60点以上を合格とするが、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 音楽編」 教育芸術社（平成20年度版）

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 日本文教出版（平成20年度版）

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度版）

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは社会・理科コースの授業の進め方について解説する。

科目の概要

社会・理科コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説などを加えながら総合的に学修することをめざしている。

学修目標

問題解決学習を中心とする社会・理科の2教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを具体的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の理解、模擬授業を実践できる指導技術の習得を目標とする。

内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究を深めるだけでなく、授業の進め方や展開法、子どもとの接し方（話術、表情）、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。

また、このコースでは、問題解決学習の手法を中心に進める。実際の授業は2名の教員がオムニバス形式で担当し、前期15週・後期15週を以下のような授業計画で進める予定である。そして、社会・理科における各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説、実技指導のポイントやコツの練習などを通して総合的に学修する。

前期 第1週：オリエンテーション

第2～8週：社会科に関する授業研究

第9～14週：理科に関する授業研究

第15週：まとめ

後期 第1週：オリエンテーション

第2～7週：社会科に関する授業研究

第8～14週：理科に関する授業研究

第15週：まとめ

評価

2教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」などを各40点で評価を行う。それに授業への取り組み（関心・意欲）の各10点を加えて総合的に評価を実施する。60点以上を合格とするが、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 社会編」 東洋館出版社（平成20年度版）

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 理科編」 大日本図書（平成20年度版）

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、廣坂 多美子、津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは「国語」の授業について授業を進めるにあたっての実際を解説する。

科目の概要

少人数で学習する体制づくりのために 国語、算数、社会・理科、音楽・図工・体育の4コースに分かれて学修を進める。受講生はいずれかのコースを選択して履修することになる。国語では、実際の授業を成立させるために、教材研究、指導案作成や指導技術などを模擬授業、映像等による授業解説などを加えながら総合的に学修することを目指している。

学修目標

ことばの学びである「国語科」の教科特性を知り、学習指導要領に示された指導目標の達成のために教材研究の方法や指導案の立案・作成の仕方を学び実践できるようにする。また、具体的な授業場面を想定しながら模擬授業を行うことができるようになる。

内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究にとどまることなく、授業の進め方や展開の仕方、子どもへの接し方（和術、表情）、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。また、このコースでは、国語科を「ことばの学び」としてとらえ、子どもたちのことばを育てることを意図し、指導の進め方を学ぶだけでなく、思考し、想像することばの働きを大切にす。さらに「伝え合う」ためのコミュニケーション能力を育てるにはどのようなことに配慮するかということも大事にしたい。

年間30週の講義になる。学年や領域を考慮し、前期後期とバランスよく扱えるとよい。

前期	第1週	オリエンテーション
	第2～7週	読むことの指導（文学的な文章）
	第8～10週	読むことの指導（説明的な文章）
	第11～13週	伝統的な言語文化の指導
	第14～15週	書くことの指導
後期	第1週	ことばの学び
	第2、3週	入門期の指導
	第4～7週	読むことの指導（文学的な文章）
	第8～10週	読むことの指導（説明的な文章）

第11～13週 話すこと・聞くことの指導

第14～15週 書くことの指導

評価

ミニレポート（3割）、授業への取り組み（模擬授業や発表活動など）（4割）、最終課題（3割）をもとに総合的に評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 国語編」 東洋館出版（平成20年版）

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「算数」「初等算数指導法」「教材研究法」の上に立ち、算数科の単元指導計画立案や、学習の主体性を尊重する指導のあり方について学ぶ。

小学校6年間を通した実践と理論の科目である。

小学校の算数科目標、内容、指導方法等を理解することにねらいを置き、児童の実態と教材の内容の分析、指導法の工夫等での優れた実践を元に、指導計画立案や学習指導案作成を通し要点をとらえる。

内容

ガイダンス

算数科授業のポイント

算数科の指導内容と指導上の留意点

基礎・基本を確実に身につけさせる指導のあり方

個に応じた指導のあり方

学力のとらえ方と評価の関係

一人一人の学力を向上させる指導のあり方

校内の指導体制と保護者の意識

問題解決指導のあり方

補充的な学習の指導と教材開発のあり方

発展的な学習の指導と教材開発のあり方

発展的な学習の指導の実際 (指導計画、指導案、模擬授業)

T Tのための指導計画の実際

コース選択とコースガイダンスの実際

評価のあり方と工夫の実際

指導計画や学習指導案の作成

模擬授業

数と計算の模擬授業とその評価

量と測定の模擬授業とその評価

図形の模擬授業とその評価

数量関係の模擬授業とその評価

小学校6年間を通した算数科指導における留意点

評価

指導計画 学習指導案 模擬授業 (100%)、60%以上を合格とする

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省 東洋館出版

学力向上フロンティアスクールの実践 10 「算数科コース別指導による確かな学び、4 - 6 年実践編」 明治図書

【推薦書】学力向上フロンティアスクールの実践 9 「算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3 年実践編」 明治図書

科目名	道徳教育		
担当教員名	綾井 桜子、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は小学校教諭一種免許状の取得に必要な「教職に関する科目」であり、「教育課程及び指導法に関する科目」の一つです。

講義では、学校をとりまく現代社会の今日的位相を射程に入れながら、小学校における道徳教育の役割、意義、内容と指導の実際を学びます。加えて、道徳的な心情、道徳的な判断力、道徳的な行為について考え、自身の道徳教育観の構築に役立てます。

学修目標は、次の三つです。 小学校における道徳教育の役割を理解する。 「道徳の時間」について理解し、構想をたてる。 発表を通じて、相互に検討を行い、道徳教育の具体的な方法を身につける。

内容

1. 道徳、道徳教育について
2. 学習指導要領について 道徳教育の位置づけ、役割
3. 学習指導要領について 道徳教育の充実、配慮事項
4. 道徳性の発達と児童理解
5. 道徳授業の実際
6. 道徳授業の実際
7. 「道徳の時間」の指導過程、指導の工夫
8. 資料の検討と分析、選択
9. 資料の検討と分析、選択
10. 指導案の作成手順、作成
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. まとめ

評価

試験40点、課題提出40点、授業への参加度20点とし、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しません

【推薦書】徳永正直・宮島秀光・榊原志保・堤正史・林泰成『道徳教育論 - 対話による対話への教育』

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』

科目名	特別活動		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生が自ら小中学校で体験した特別活動に関する思い出や課題意識を相互に意見交換し、教師として児童生徒の自主的な活動を指導できるようにする。

学修目標

- ・学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成に資する特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の歴史的変遷や領域ごとの特色について理解する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践するための指導のあり方について考察する。
- ・学級活動の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容

1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	7. 学級活動の指導案の作成	
8	8. 児童会活動、生徒会活動	児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史的変遷と教育的意義	
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等望ましい実施と指導上の配慮事項	
11	11. 総合的な学習の時間との連携	
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践（1）学生の選択した主題	
14	14. 模擬授業の実践（2）学生の選択した主題	
15	15. 模擬授業の評価とまとめ	

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道德教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『小学校学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道德・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	教育方法		
担当教員名	狩野 浩二、津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、教育職員免許法施行規則で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目である。同施行規則で定められた科目には、「教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」となっているが、コンピュータ等の操作技法については、高等学校まであるいは大学入学後に「情報処理演習」において十分に学習しているので、操作技法については行わない予定である。

本科目では、「方法・技術」を軽視したり、メディアや情報機器を活用することが「方法・技術」であるとしたりするものではなく、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考えている。

「方法・技術」には、子どもの状態を見抜き、事態の先を見通す洞察力なども含んだ「教師力」そのものであると考えている。その意味において、教員を目指すものには必ず理解し、学修してほしい分野である。

内容

以下に取り扱う内容を示す（順不同）。

テキストの順序に沿っている。

- 1 教育の方法と技術（教育の方法・技術とは何か、子どもの学びと教師の方法・技術など）
- 2 授業が目指すものは何か（授業の方法・技術と子ども、子どもの固有性と方法・技術の創造性）
- 3 授業の構想と計画（構想と計画の基本的視点、指導案はどう書くか、指導案を支える教材研究）
- 4 指導案作成（実習課題）
- 5 教えることと支援すること（本気で教えること、学習支援と称して放置すること）
- 6 問いの創造と授業の展開（問いの発見から課題の成立へ、授業の構成と学習形態）
- 7 教材づくり・教材発掘の視点（教材づくり・教材発掘の視点、教材研究）
- 8 授業と教授メディア（教授メディアの変遷、授業はどのように変わるか）
- 9 コンピュータの利用（コンピュータと現代社会、コンピュータの教育利用の領域と教師の役割）
- 10 学習障害（LD）の理解と指導（学習障害の概念、LDの要因と理解、指導法）
- 11 特別支援教育と方法・技術（特別支援教育、Normalization, ADHD）
- 12 授業と教師（教師の力量、表現としての教師の身体、教師のことば）
- 13 教育評価の役割と方法
- 14 学力と教育評価の課題（予期しない学習の結果、教育的働きかけと評価、学力）
- 15 まとめ

評価

評価は、 授業態度（授業への参加度や、授業中の課題への取り組み状況）を10%、 課題の提出状況と達成度を40%、 最終試験の達成度を50%とし、総合的に行う。全体の60%以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う場合があるので注意すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松平信久・横須賀薫編『新訂教育の方法・技術』教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版，その他教室で紹介する。

科目名	保育内容総論		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼稚園教育要領に示されている5領域からなる保育内容を学習し、幼稚園教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格をもつ。

科目の概要

幼稚園において、子どもたちは自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達を遂げている。本授業では、幼児期にふさわしい生活を展開するためには、どのような環境や保育内容が必要か、指導方法をどのように考えることが大切かについて、総合的に考える力を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びを振り返る中で、具体的な場面を想定しながら環境のあり方、指導の方法についてグループで考え発表の機会をもつ。

学修目標

- ・幼稚園教育要領における領域の意味と関係性について理解する。
- ・保育内容やねらいに即した指導計画を作成し、実践するためのスキルを獲得する

内容

- 第1回：保育内容とは何か
- 第2回：教育課程と指導計画の関係性
- 第3回：幼稚園の特色・教育方針（様々な幼稚園の現状理解）
- 第4回：幼稚園の特色・教育方針（発表）
- 第5回：保育内容・5領域の関係性
- 第6回：遊びの中における幼児一人一人の学び
- 第7回：遊びの中の学びを豊かにする教材
- 第8回：保育の質を高める教材と指導の在り方
- 第9回：遊びと環境の構成
- 第10回：学級集団とグループダイナミックス
- 第11回：指導計画の作成と指導の工夫
- 第12回：グループごとの発表1（指導計画）
- 第13回：グループごとの発表2（指導の工夫）
- 第14回：幼児の経験を総合的にとらえる視点
- 第15回：まとめ・保育内容を充実させる教師の専門性

評価

授業への参加態度・グループ活動への貢献度(30%)、プレゼンテーションの内容(20%)学期末の試験(50%)により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト 初回の授業で指示する

参考資料 文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	大井 登子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。

保育における『環境』とは何か，子どもの発達や遊び，保育者の役割に関する基本的知識を身につけ，幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

幼児教育における基本を理解し，保育を『環境』という視点からとらえ，子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっているような環境作りを考える。その際，保育者自信が周囲の環境に気付き，柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心，問題意識を持つ。そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法，保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として，自然環境のみならず，人・物・事象と子どもとの関係を理解する。

授業内では様々な事例から，また自らの日常生活から具体的・実践的に考えたり，グループワークや発表の機会を設けたりするなど，受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

- 第1回 保育における『環境』とは
- 第2回 幼稚園教育要領・保育所保育指針における『環境』
- 第3回 子どもの発達と環境：乳児期
- 第4回 子どもの発達と環境：幼児期，児童期
- 第5回 遊びと環境（その1）
- 第6回 遊びと環境（その2）
- 第7回 具体的事物との関わり，人的環境としての保育者の役割
- 第8回 子どもの自然へのかかわり
- 第9回 生活環境における文字，数量，情報
- 第10回 園の行事と子どもの経験
- 第11回 遊びと環境（その3）
- 第12回 遊びと環境（その4）
- 第13回 遊びと環境（その5）
- 第14回 保育者の環境構成
- 第15回 まとめ

評価

授業への取組および態度（20％），発表活動と振り返りのレポート（40％），まとめのレポート（40％）による評価を行い60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<教科書・テキスト>

特に指定しない

<参考図書>

- ・『環境』無藤隆・福元真由美編 萌文書林
- ・幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館
- ・保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	村田 光子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は幼稚園教諭一種免許や保育士資格取得のための必修科目であり、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。

科目の概要

領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、乳幼児期の人とかかわる力の発達過程をふまえた保育者の援助について、演習形式で学ぶ。

学習の目標

- ・乳幼児期の子どもの人間関係の育つ過程を知り、保育者や友だちとのかかわりの中で、どのように人間関係が育っていくのかを理解する。
- ・領域「人間関係」の意義とねらい・内容を理解し、具体的な乳幼児の姿と結びつけて考えることができる。
- ・たくましい社会性の形成を目指して、幼稚園教諭、保育士として積極的に援助することができるようになる。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。

現代社会と人とかかわり

乳幼児期の人とかかわりの発達（乳児期前半）

乳幼児期の人とかかわりの発達（乳児期後半）

乳幼児期の人とかかわりの発達（幼児期前半）

乳幼児期の人とかかわりの発達（幼児期後半）

領域「人間関係」の意義、ねらい・内容

領域「人間関係」とその他の領域との関係

生活や遊びの中で育つ人とかかわり（事例を中心に）

生活や遊びの中で育つ人とかかわり（事例を中心に）

生活や遊びの中で育つ人とかかわり

人とかかわりを育てる保育者の役割と援助（事例を中心に）

人とかかわりを育てる保育者の役割と援助

人とかかわりが難しい子どもへの支援

人とかかわる力を育てる大人の人間関係

まとめ

評価

期末テスト（70％）、ミニレポート、学習への参加状況（30％）を総合して評価する。

合格点（60点）に満たなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト 榎沢良彦・入江礼子編著 『シードブック 保育内容 人間関係』 建帛社

参考資料 文部科学省 [幼稚園教育要領解説] フレーベル館

厚生労働省 [保育所保育指針解説書] フレーベル館

文部科学省 幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」改訂版 ぎょうせい

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	村田 光子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は幼稚園教諭一種免許や保育士資格取得のための必修科目であり、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。

科目の概要

領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、乳幼児期の人とかかわる力の発達過程をふまえた保育者の援助について、演習形式で学ぶ。

学習の目標

- ・乳幼児期の子どもの人間関係の育つ過程を知り、保育者や友だちとのかかわりの中で、どのように人間関係が育っていくのかを理解する。
- ・領域「人間関係」の意義とねらい・内容を理解し、具体的な乳幼児の姿と結びつけて考えることができる。
- ・たくましい社会性の形成を目指して、幼稚園教諭、保育士として積極的に援助することができるようになる。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。

現代社会と人とかかわり

乳幼児期の人とかかわりの発達（乳児期前半）

乳幼児期の人とかかわりの発達（乳児期後半）

乳幼児期の人とかかわりの発達（幼児期前半）

乳幼児期の人とかかわりの発達（幼児期後半）

領域「人間関係」の意義、ねらい・内容

領域「人間関係」とその他の領域との関係

生活や遊びの中で育つ人とかかわり（事例を中心に）

生活や遊びの中で育つ人とかかわり（事例を中心に）

生活や遊びの中で育つ人とかかわり

人とかかわりを育てる保育者の役割と援助（事例を中心に）

人とかかわりを育てる保育者の役割と援助

人とかかわりが難しい子どもへの支援

人とかかわる力を育てる大人の人間関係

まとめ

評価

期末テスト（70％）、ミニレポート、学習への参加状況（30％）を総合して評価する。

合格点（60点）に満たなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト 榎沢良彦・入江礼子編著 『シードブック 保育内容 人間関係』 建帛社

参考資料 文部科学省 [幼稚園教育要領解説] フレーベル館

厚生労働省 [保育所保育指針解説書] フレーベル館

文部科学省 幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」改訂版 ぎょうせい

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期のことば
2	乳幼児期のことば
3	保育内容（言葉）を理解する
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	保育者の言葉と援助
7	子どものことばを豊かに（絵本）
8	絵本・物語とイメージーション
9	読み聞かせの演習
10	ことば遊び / 劇遊び
11	ことば遊び / 劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	まとめ

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（音楽）		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼児期における音楽教育の必要性と大切さを理解した上で、保育現場での実際の音楽活動について学ぶことを目的とする。

童謡や子どもの歌をとりあげ、普段の保育で遊ぶ簡単なリズムあそびや、発表会・運動会などの行事で発表する簡単なリズムダンスへの発展の仕方などを修得し、導入法などを学ぶ。

また同時に童謡や子どもの歌と一緒にうたいながら演奏できる伴奏法も学び、保育者自身のピアノの技術の向上もめざす。音楽をいかに楽しく表現するか、その音楽を子どもにどのように指導していくかを勉強していく。個人個人の技量に合わせて最終的に伴奏でき、指導できることを学修目標とする。

内容

この講義は、毎回童謡や子どもの歌に合わせて動いたり遊んだり、また課題曲を歌いながらピアノを弾く実技を伴うものである。

(1)歌いながら伴奏をする。

前半の60分は、ピアノの実技を中心に講義を行う。

音楽を、季節・行事・遊び・生活・その他のジャンルに分類する。それぞれのジャンルから、よく歌われる歌、知っている歌、新曲などから、毎回課題として3～4曲ずつ選曲し、個人の技量に合わせて編曲をして弾き、また子どもの発達段階に合わせての指導法を勉強する。

リズム・フレーズ・拍子など音楽分析

各自の技術に合わせた演奏と編曲

歌いながらの指導法

行事関係の曲

生活関連の曲

あそび関連の曲

(2)リズム遊びや動きなどを中心として動く。

後半30分は、手遊び・リズムあそび・リズムダンスを2～3曲覚える。

普段の保育でのリズムあそびやその創作

発表会や運動会を中心としたあそび・動き

歩くリズムの捉え方

走るリズムの捉え方

スキップのリズムの捉え方

流れるリズムの捉え方

縦乗りのリズムの捉え方

評価

毎回ごとの課題に対する発表(60点)と試験(30点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点を以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、テキスト・プリント・CDを使用し紹介する。

推薦CD:

- ・しみずれいこのリズム・あそび&ダンス 大集合(キングレコード)
- ・お誕生会あそび&運動会ダンス(キングレコード)など

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	山本 悟、岡上 直子、鳩山 多加子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は幼稚園教諭免許取得の必修科目であり、幼児の健康・安全・運動に関する指導のあり方を学ぶものである。

科目の概要

健康・安全に必要な基本的な生活習慣や生活リズムを身につけさせる方法や幼児の運動遊びに関する指導法を学ぶとともに、施設・設備の整備に関する具体的なあり方を理解する。指導法を学ぶ場として模擬授業的な活動を設け、受講者全員に発表活動を体験させる。4名の教員が専門性を生かし、オムニバス形式で授業を担当する。

学修目標

幼児における健康の意義とその必要性を理解し、健康に関する保育指導法の知識や技能を身につけることができる。

内容

1	オリエンテーション（本講義のねらいについて）
2	幼児における健康的な生活について
3	子どもの心身の発育・発達とその特性
4	発表活動の説明と班づくり
5	子どもの生活リズムおよび基本的な生活習慣
6	幼稚園における実際活動を知る（その1） * 幼稚園の生活の実態を学ぶ
7	子どもの遊びと運動発達、その指導法（模擬的授業活動のプレゼン）
8	子どもの遊びと運動発達、その指導法（模擬的授業活動のプレゼン）
9	子どもの遊びと運動発達、その指導法（模擬的授業活動のプレゼン）
10	幼稚園における実際活動を知る（その2） * 運動や遊びについて、幼児の実態を理解
11	保健指導に関する模擬授業的活動（プレゼン）
12	保健指導に関する模擬授業的活動（プレゼン）
13	子どもの安全指導に関する模擬授業的活動（プレゼン）
14	幼稚園における実際活動を知る（その3） * 子どもの生活習慣づくり
15	子どもの救急法を学ぶ

評価

発表活動と振り返りのレポート60点、まとめのレポート20点、授業への取り組み（関心・意欲）20点による評価を行い、60点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館

【推薦書】 河邊貴子編 「保育内容（健康）」 ミネルヴァ書房

科目名	保育内容の指導法（造形）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」とある。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.オリエンテーション・自然との出会い-1
2. 自然との出会い-2
3. 自然との出会い-3
4. 自然との出会い-4
5. 自然との出会い-5
6. ものとの出会い-1
7. ものとの出会い-2
8. ものとの出会い-3
9. ものとの出会い-4
10. ひととの出会い-1
11. ひととの出会い-2
12. ひととの出会い-3
13. 社会の事象と造形-1
14. 社会の事象と造形-2
- 15.まとめ

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

授業を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分自身のポートフォリオを作成すること(60%)。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出(40%)により総合的に判断します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」とある。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.オリエンテーション・自然との出会い-1
2. 自然との出会い-2
3. 自然との出会い-3
4. 自然との出会い-4
5. 自然との出会い-5
6. ものとの出会い-1
7. ものとの出会い-2
8. ものとの出会い-3
9. ものとの出会い-4
10. ひととの出会い-1
11. ひととの出会い-2
12. ひととの出会い-3
13. 社会の事象と造形-1
14. 社会の事象と造形-2
- 15.まとめ

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

授業を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分自身のポートフォリオを作成すること(60%)。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出(40%)により総合的に判断します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕平田智久監修「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（表現）		
担当教員名	狩野 浩二、久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教育職員免許法に定められた「指導法」に関する科目である。幼稚園教員免許状一種取得（小学校教員免許一種取得者に限る）に必要な科目であり、身体表現，朗読，歌唱表現等を子どもたちに指導する際の内容や方法について学ぶ。

この科目では，子どもたちの身体表現，朗読表現，歌唱表現等を指導する際に必要となる教師の技術について，実際に作品を教材として実際に学ぶことになる予定である。学修に際しては，運動のできる服装，裸足になることがあること，などに留意すること。

まずは，学生自らが心をひらいて表現する経験を積むことである。その上で，子どもたちに表現活動を指導する際には，どのようなことに注意したらよいかを実技を交えて学ぶことである。

内容

教室において，取り組む教材を紹介する。その上で，朗読表現，歌唱表現，身体表現等について，個人やグループで個別的に学修し，お互いにそれぞれの良さを学び合うことになる。

教材としては，梶山正人オペレッタ曲集のなかから，子どもたちが取り組むことによって，自己を解放し，それぞれの表現力が向上していく実践において成果のあったものを選ぶ予定である。

毎回の授業において，取り組む作品についての教材解釈，個人練習，集団練習の方法，作品構成の理解，発表までの道筋，発表における留意点等を，実際に学ぶことになる。

評価

毎回の取り組みの様子（3割）、振り返りの課題（7割）を提出してもらい，その内容を総合して60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト（教科書）は，印刷して配布する予定である。

参考文献

梶山正人，松平信久，横須賀薫編『心をひらく表現活動』全三巻，教育出版

斎藤公子『さくら・さくらんぼのリズムと歌』群羊社

科目名	生徒指導・進路指導		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

生徒指導は、学校における教科指導と並んで学校教育の中心となるものである。しかし、生徒指導の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。生徒指導の機能について正しく理解し指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生自らの小中学校における生徒指導の体験や課題意識を相互に意見交換し、児童生徒の生き方・在り方にかかわる指導ができるようにする。

学修目標

- ・生徒指導の意義や目的、内容、方法について理解を図りつつ、自らの児童観、教師観を構築していく。
- ・生徒指導上の諸問題について、グループごとに課題を設定し、その対応の仕方を具体的に考察する。
- ・小学校における進路指導の在り方について考察する。

内容

授業は教科書を使って行うが、講義形式だけでなく、自ら課題を見つけ、調査・検討し、発表するグループワークを行う。小学校における指導を意識した具体的な指導力について、体験的に学び合い、互いに高め合える授業をめざす。

1	1. 生徒指導の意義と目的
2	2. 生徒指導の領域・内容と課題
3	3. 生徒指導と教育課程との関連
4	4. 各教科・道徳・特別活動等の生徒指導に果たす役割
5	5. 生徒指導の組織と計画
6	6. 児童・生徒理解の意義と重要性
7	7. 児童・生徒理解の内容と方法
8	8. 児童・生徒理解の具体的な手だての有効性と問題点・留意点
9	9. 生徒指導における集団指導の意義と方法
10	10. 生徒指導における集団指導の実際(1) 子どもの気持ちをつかむ指導法
11	11. 生徒指導における集団指導の実際(2) 思いを伝えづらい雰囲気改善する指導法
12	12. 進路指導の目的と内容
13	13. 小学校における進路指導
14	14. 進路指導の方法と指導計画
15	15. 学習のまとめ

評価

試験60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川？成編著 『生徒指導の理論と方法』 学芸図書

【参考図書】学校教育研究所編 『生徒指導の今日的課題』 学校教育研究所

新井邦男、住田正樹、岡崎友典編著 『改訂 生徒指導』 放送大学教育振興会

仙崎 武、野々村新、渡辺三枝子、菊池武剋編 『入門 生徒指導・相談』 福村出版

科目名	幼児理解の理論と方法		
担当教員名	岡上 直子、大井 登子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼児期の教育は、幼児理解から始まる。本科目は、幼児教育に関する他の科目を履修する際の基盤となる幼児理解の考え方や具体的な方法を身に付けることを目的としている。

科目の概要

幼児の「発達の過程」の概要と「一人一人の幼児を理解すること」の意味及び方法について理論から学ぶ。また、具体的な幼児の行動記録やビデオ記録等からの読み取りを通して、幼児を理解するための手がかりや方法について学ぶ。

学修目標

- ・ 幼児を理解する力の基礎となる幼児の心身の発達や認知の傾向等を理解する。
- ・ 多面的な幼児理解の方法について知る。
- ・ 幼児理解の具体的な視点を学び、幼児の発達や活動の意味を捉える力を身に付ける。

内容

- 第1回：幼児理解とは
- 第2回：発達や学びの連続性
- 第3回：発達の過程と一人一人の幼児の理解 （3歳児）
- 第4回：発達の過程と一人一人の幼児の理解 （4歳児）
- 第5回：発達の過程と一人一人の幼児の理解 （5歳児）
- 第6回：幼児理解のための教師の姿勢
- 第7回：集団と個の関係
- 第8回：教師の学び合い・多面的な理解
- 第9回：幼児の行動記録の方法と留意点
- 第10回：記録の工夫と実際
- 第11回：記録の読み取りと分析・考察
- 第12回：記録の読み取りから深める幼児理解と評価
- 第13回：日常の評価と指導要録への記入
- 第14回：幼児理解に求められる教師の専門性
- 第15回：まとめ

評価

授業への取り組みと課題提出30%、最終試験の達成度70%で評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<テキスト>

文部科学省 幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」 ぎょうせい

科目名	教育相談		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

〔科目の性格〕

学級担任としての教育相談的対応のためには、他の教師やスクールカウンセラーとの連携による組織的な指導援助を欠かすことができない。学生自身が主体的に学び、相互に意見交流をする体験を通して、教師として大切な協働の精神や人間関係形成力を身につける。

〔科目の概要〕

学校教育において個に応じたきめ細かな指導を進めるために、児童生徒理解を欠かすことはできない。指導にあたる教師が児童生徒のありのままを受け止め、教育相談的にかかわることができるようにするため、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。

〔学修目標〕

- (1) 教育相談やカウンセリングの歴史及び基本的な理論について理解し、学校教育相談の意義や課題について考察する。
- (2) 学校において生徒指導の中核をなす教育相談の果たす役割について理解し、カウンセリングマインドによる具体的な指導のあり方について考察する。
- (3) 学校教育相談の進め方について理解し、カウンセリングの基礎的な技能を身につける。

内容

- 第1回 学校教育と教育相談
- 第2回 乳児期・幼児期における子どもの問題
- 第3回 小学校における子どもの問題
- 第4回 中学校・高等学校における子どもの問題
- 第5回 発達障害の理解と支援
- 第6回 精神疾患の理解と支援
- 第7回 教育相談の理論
- 第8回 教育相談の技法
- 第9回 学級経営に生かす教育相談
- 第10回 学校で使えるアセスメント
- 第11回 保護者への理解と支援
- 第12回 校内及び関係機関との連携、カウンセリングの実際
- 第13回 スクールカウンセラーの活用、カウンセリング模擬体験
- 第14回 カウンセリング実習(1)身内の問題
- 第15回 まとめ、カウンセリング実習(2)将来の問題

評価

毎回の授業の振り返り、レポート課題、発言等の平常点の評価40%、試験による評価60%により評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕

「教師のたまごのための教育相談」会沢信彦、安齊順子 編著 北樹出版

〔推薦書〕

「小学校学習指導要領」文部科学省

「学級教育相談入門」有村久春 著 金子書房

「生徒指導と教育相談」教職教育講座第5巻 長谷川 栄、杉原一昭 編 共同出版

科目名	学校観察実習		
担当教員名	綾井 桜子、清水 玲子、増田 吉史、山本 悟 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修 * , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 教職専門科目として、必修の実習である。

科目の概要 当学科が指定する新座市内の小学校を中心としたボランティア活動等の経験を通して学校の実際を知る。また、配当校の校内研修会に参加させていただくことにより授業研究の方法を学ぶ。

- 学修目標
- ・学校教育活動における児童の実態のあらましについて知ること。
 - ・教職員の教育活動の実際を知ること。

内容

・大学の授業がない夏休みや冬休みに、指定した小学校のボランティアに参加する。ボランティア活動時間は、記録証明簿に記載しておく。またウェブ上の履修カルテにも記入すること。

・また、1年間継続的にボランティアをすることにより、学校の1年間を見通す。

・校内研修会に年3回参加し、授業研究の方法を学ぶ。

・毎回、「ボランティア活動日誌」をつけることにより、自分の行動、見方、考え方を振り返る。それは、自分自身を見つめ直すことであり、自己を磨くことにつながる。その中から、自分の考え方の変化や教師を目指そうとする確固とした意識の芽生えが起こってくるであろう。そうしてこそ、子どもとの関わり方などの教育技術も身につけることができるのである。

さらに、学校現場に身を置くことにより、教師としての、言葉使い、服装、行動、その他さまざまな留意点にも配慮できる経験を積む。

評価

ボランティア活動時間ならびに活動日誌を点検することで、学生個々の学校観察の内容を吟味して採点する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

事前指導の折に、適宜、紹介する。

科目名	教育実習事前事後指導		
担当教員名	松木 正子、綾井 桜子、狩野 浩二、清水 玲子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

【履修登録は、通常では3年次後期に行ってください。前期科目は再履修者用です】

この授業は教職員免許法で定める小学校の教育実習に係わる事前事後の指導を行うことをねらいとしている。

教育実習の目的、進め方、教育実習へ臨む心構えを初め、実際の授業の進め方、指導案の作成の方法等について講義、演習を行う。

また、教育実習後の発表、協議を行う。

教員にかかわる法規について知る。

実習の意義と心構えについて学ぶ。

指導案の作成や授業を想定し模擬的に行うことができる

内容

1	教育実習ガイダンス
2	教育関係法規
3	教育関係法規
4	教育課程、生徒指導
5	小学校学習指導要領
6	小学校学習指導要領
7	小学校学習指導要領
8	指導案を書く意義と書き方の基本
9	実習を終えて (4 年生の話)
10	教育実習に向けて
11	教育実習に向けて
12	事例研究
13	事例研究
14	教育実習事後指導
15	教育実習事後指導

評価

事前指導におけるレポート (2 割)、指導案等の取り組み状況 (3 割)

事後指導における研究協議の内容、自己評価の内容 (5 割)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説総則編 (文部科学省)

科目名	幼稚園教育実習(事前・事後指導を含む)		
担当教員名	岡上 直子、綾井 桜子、狩野 浩二、清水 玲子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状取得のための保育現場における総合的実習の科目である。

小学校教諭免許状取得のための小学校教育実習をあわせて受講する者が履修対象である。

幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとするのが求められる。

幼稚園での教育実習を体験することで、大学で学習した理論や教育方法を活用しながら、幼稚園教諭を目指す者として必要な保育観、知識・技能などを学び、指導力を身に付けることを目標とする。

科目の概要

幼稚園教育の基本となる考え方、幼児の発達特性、教育実習を行う際の心構え等について学び、実習園における総合実習及び実習の経験から学んだことの理解を深める。

学修目標

幼稚園教育の理念・特質を理解する

幼稚園教育の具体的な指導内容・方法について理解する

幼稚園教育の具体的な指導力を身に付ける

幼稚園教育と小学校教育の接続について理解する

内容

(1) 事前指導

課題意識をもって実習に臨むことを目指して、幼稚園教育の基本となる考え方について学び、幼稚園教育の実際について具体的なイメージを広げる。

実習の目的・目標、内容等にかかわるオリエンテーション

幼児の発達特性と観察の方法について

保育内容、指導と評価

幼稚園の教育課程・指導計画の考え方、指導案作成の方法

実習園におけるオリエンテーション(園長、実習担当の教職員等による)

(2) 総合実習

小学校教諭1種免許状を取得することを前提条件としているので、実習期間は、1週間である。

参加観察実習と責任実習を含む総合実習を連続して行う。

実習日誌を毎日書き、実習園の担当教諭等から指導を受ける。

幼児集団を指導する部分実習(1回)及び責任実習(1回)を行う。

実習に当たっては、学級や幼児の実態に即した指導案を作成し、実習園の担当教諭等から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とする。

(3) 事後指導

学内での実習報告や実習日誌を手がかりとして、幼稚園教育に関する理解を深める。

幼稚園教育の独自性

幼稚園における学びの評価

幼稚園教育と小学校教育の接続（遊びの中の学びから学習へ）

評価

実習指導園から実習の取り組み状況等に関する評価を受け、それを参考に実習担当教員が評価する。

実習日誌、事前事後指導における取り組み状況や提出物も評価対象となる。

事前事後指導中の取り組み態度及び実習日誌等の提出物を30%、教育実習の勤務状況、実習の取り組み姿勢及び実習園の成績評価等を70%として、総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】プリント配布

【参考書】文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館

文部科学省 「幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価」 ぎょうせい

科目名	国語		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 幼稚園教諭一種及び小学校教諭一種を取得するための必修科目である。
- 小学校の国語科を指導するにあたって、言語に関する一般常識を身につける。
- ことばについての知識や学び方を知る。
- ことばの学びに必要な知識を実践を通して身につける。
- さまざまな言語体験を通して「ことば」に対する関心を高める

内容

1	ガイダンス（ことばの学びとは）
2	文字（ひらがな、かたかな、漢字）
3	漢字（熟語・筆順の決まりなど）
4	ことわざ・慣用句・四字熟語
5	ことばについて（敬語・句読点・辞書など）
6	論理的に考える
7	論理的に考える
8	詩を読む
9	詩を読む
10	新聞を読む（感想を持って）
11	新聞を読む（プレゼンテーション）
12	自分の考えを書く
13	文字を整える
14	考えを整理する（新聞づくり）
15	まとめ

評価

ミニレポート（3割）、実践参加の状況（3割）、最終レポート（4割）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領解説（国語科）

科目名	算数		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児期から形成される数学的な概念を、小学校算数科の内容と関連づける。「初等算数科教育」「教材研究(算数)」「授業研究(算数)」へと発展していく。

算数は低学年から高学年の学年進行にしたがって段階的に高度になる指導の系統を考察し、小学校入学前の幼児期の遊びや生活を通した数や量の形の概念獲得を知る。算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。

幼児期から形成される数学的な概念を、小学校算数科の内容と関連づけ、さらに問題解決学習を体感する。

内容

1	ガイダンス、小学校における算数科の役割と幼児教育
2	学習指導要領における算数、数感覚、個数を数えること、1対1対応
3	幼児の数感覚、十進位取り記数法
4	同じ数ずつの集まり、数の相対的な大きさ
5	どちらが多い、すごろく遊び、ものと数詞の対応、数の表し方
6	幼稚園での遊びの中での数、数概念、数直線
7	数の大小、順序と系列あわせていくつ、ピング・ゲーム
8	幼稚園で数に関わること、加法・減法の意味、加法・減法の計算
9	数の増減、数当てゲーム、整数の性質、問題解決的な学習
10	仲間集めと分類、くらべてみよう
11	身近な量の大きさ
12	比べ方と量の保存、量の測定
13	幼児の図形と空間の感覚、形作り、型押し、影遊び、模様作り
14	幼児児童の数量感覚、変わり方のパターン
15	振り返りとまとめ

評価

小テストや提出物(80%)、試験(20%)で評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著(東洋館出版社)

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び、理論編(明治図書)

算数科コース別指導による確かな学び、1-3年実践編(明治図書)

算数科コース別指導による確かな学び、4-6年実践編(明治図書)

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト] バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト] バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト] バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト] バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Mクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Nクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法(音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験(70%) 通常の授業態度(30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本(全音楽譜出版) ソナチネ1(全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Pクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法(音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験(70%)通常の授業態度(30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本(全音楽譜出版) ソナチネ1(全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト] バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト] バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法(音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験(70%) 通常の授業態度(30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本(全音楽譜出版) ソナチネ1(全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法(音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験(70%) 通常の授業態度(30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本(全音楽譜出版) ソナチネ1(全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト] バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト] バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法(音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験(70%)通常の授業態度(30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本(全音楽譜出版) ソナチネ1(全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Mクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト] バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Nクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト] バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Pクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽) 」の科目の基礎を学ぶ講義である。

初心者から経験者まですべての学生が、音楽理論や読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

楽典や楽譜の読み方などについては講義形式をとり、ピアノの技術に関しては個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」の60番から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ 1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%) 、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト] バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ 1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	図画工作		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得することを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
8	身近にある材料を使った表現
9	身近にある材料を使った表現
10	身近にある材料を使った表現
11	身近にある材料を使った表現
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する (60%)。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出 (40%) により総合的に判断します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

適宜、紹介する。

推薦書

・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに

- ・阿部寿文・舟井賀世子 『0・1・2歳児の造形あそび百科』 ひかりのくに
- ・平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	図画工作		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得することを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
6	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
7	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について
8	身近にある材料を使った表現
9	身近にある材料を使った表現
10	身近にある材料を使った表現
11	身近にある材料を使った表現
12	身近な材料でつくって遊ぶ
13	身近な材料でつくって遊ぶ
14	身近な材料でつくって遊ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する (60%)。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出 (40%) により総合的に判断します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

適宜、紹介する。

推薦書

・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに

- ・阿部寿文・舟井賀世子 『0・1・2歳児の造形あそび百科』 ひかりのくに
- ・平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教諭、小学校教諭免許状取得に関する選択必修科目の1つである。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎を学ぶことをねらいとしている。

科目の概要

運動を教材として扱うため、授業は実技を交えて展開し、小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。2名の授業担当者が専門分野を生かしたオムニバス形式で授業を進める（第8週目の授業を境に交代）。また、体育科の指導法に関する総まとめとして、受講学生が子ども役の仲間を指導する模擬授業も実施する予定である。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する知識を深める講義を行う。

学修目標

身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝えたり指導したりするための基本的な知識・技能・ノウハウを身につけることをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション、運動会種目の理解と実践
2	鉄棒運動（ダルマ回り）、陸上運動（ハードル走 : 跳び方のコツを探る）
3	鉄棒運動（腕立て後転）、陸上運動（ハードル走 : チーム対抗の競走）
4	鉄棒運動（腕立て前転）、陸上運動（リレー競技の工夫と教材研究）
5	器械運動（マット運動：側転、跳び箱運動：開脚とび、台上前転 技のコツと躰の理解）
6	模擬授業（授業づくりと指導案作成の復習、ビデオ映像から学ぶ授業技術とポイント）
7	模擬授業（マット運動、なわとび運動を題材にした模擬授業の実践と振り返り、評価）
8	模擬授業（前転ボール捕り、跳び箱運動を題材にした模擬授業の実践と振り返り、評価）
9	ネット型ボール運動（ソフトバレーボール：基本技能の練習、簡易ゲームの進め方）
10	ネット型ボール運動（プレルボール、ハンドテニス：基本技能とゲームの進め方の理解）
11	表現運動（リズムダンスとその工夫）
12	表現運動（創作活動と発表会）
13	ゴール型ボール運動（ボールを持たない動きの理解とその指導法）
14	ゴール型ボール運動（ドリルゲームとタスクゲームの実践：バスケットを題材に）
15	ゴール型ボール運動（コーンボール、フリスビーを使った教材の工夫とその指導）

評価

平常点（授業への取り組みで評価：運動量、協働性、意欲と関心）60点、模擬授業の発表およびレポート40点とし

て、総合的に評価する。また、合格点60点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）
小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年」 光文書院
「新版 小学保健 見つけよう健康 5・6年」 光文書院
- 【推薦書】 筑波大学附属小学校体育部 編 「子どもが力をつける体育授業」 不昧堂出版

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教諭、小学校教諭免許状取得に関する選択必修科目の1つである。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎を学ぶことをねらいとしている。

科目の概要

運動を教材として扱うため、授業は実技を交えて展開し、小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。2名の授業担当者が専門分野を生かしたオムニバス形式で授業を進める（第8週目の授業を境に交代）。また、体育科の指導法に関する総まとめとして、受講学生が子ども役の仲間を指導する模擬授業も実施する予定である。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する知識を深める講義を行う。

学修目標

身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝えたり指導したりするための基本的な知識・技能・ノウハウを身につけることをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション、運動会種目の理解と実践
2	ネット型ボール運動（ソフトバレーボール：基本技能の練習、簡易ゲームの進め方）
3	ネット型ボール運動（プレルボール、ハンドテニス：基本技能とゲームの進め方の理解）
4	表現運動（リズムダンスとその工夫）
5	表現運動（創作活動と発表会）
6	ゴール型ボール運動（ボールを持たない動きの理解とその指導法）
7	ゴール型ボール運動（ドリルゲームとタスクゲームの実践：バスケットを題材に）
8	ゴール型ボール運動（コーンボール、フリスビーを使った教材の工夫とその指導）
9	鉄棒運動（ダルマ回り）、陸上運動（ハードル走：跳び方のコツを探る）
10	鉄棒運動（腕立て後転）、陸上運動（ハードル走：チーム対抗の競走）
11	鉄棒運動（腕立て前転）、陸上運動（リレー競技の工夫と教材研究）
12	器械運動（マット運動：側転、跳び箱運動：開脚とび、台上前転～技のコツと躰の理解）
13	模擬授業（授業づくりと指導案作成の復習、ビデオ映像から学ぶ授業技術とポイント）
14	模擬授業（マット運動、なわとび運動を題材にした模擬授業の実践と振り返り、評価）
15	模擬授業（前転ボール捕り、跳び箱運動を題材にした模擬授業の実践と振り返り、評価）

評価

平常点（授業への取り組みで評価：運動量、協働性、意欲と関心）60点、模擬授業の発表およびレポートを40点と

して、総合的に評価する。また、合格点60点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）
小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年」 光文書院
「新版 小学保健 見つけよう健康 5・6年」 光文書院
- 【推薦書】 筑波大学附属小学校体育部 編 「子どもが力をつける体育授業」 不昧堂出版

科目名	社会		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科科目の1つである「社会」が学校教育の中で、どのような分野を担当しているのか、その位置づけと社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。

科目の概要

- ・社会科は、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」と大きく3つに分かれるが、各分野で取り上げられる事象（学習内容や項目）についていくつか事例的に取り上げ、その内容について考察する。
- ・社会科における資料の取扱いや活用について考察する。

学修目標

- ・小学校教育の中における教科としての「社会」の意義や役割、目標について理解を深める。
- ・社会科の学習内容の主なものについて事例的に取り上げ、理解を深める。

内容

- 1 ガイダンス 小学校社会科の変遷 社会科の目標と主な内容
- 2 低学年の生活科とのかかわり 学習内容とのかかわり
- 3 中学年社会科の学習内容 3学年・4学年
- 4 高学年社会科の学習内容 5学年・6学年
- 5 社会科学習における地理的内容（1）
- 6 社会科学習における地理的内容（2）
- 7 社会科学習における図表の活用（1） 地図の見方・活用の仕方
- 8 社会科学習における図表の活用（2） 地形図の活用の仕方
- 9 社会科学習における歴史的内容（1）
- 10 社会科学習における歴史的内容（2）
- 11 社会科学習における図表の活用（3） 年表の見方・活用の仕方
- 12 日本歴史年表を作る 歴史上の出来事を年表に表し、年表上で考える
- 13 社会科学習における公民的内容（1）
- 14 社会科学習における公民的内容（2）
- 15 まとめ

評価

課題レポートなどの提出物60点、授業への取り組み（授業のまとめ、小テスト等）40点、に

より総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書

- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍

科目名	社会		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科科目の1つである「社会」が学校教育の中で、どのような分野を担当しているのか、その位置づけと社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。

科目の概要

- ・社会科は、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」と大きく3つに分かれるが、各分野で取り上げられる事象（学習内容や項目）についていくつか事例的に取り上げ、その内容について考察する。
- ・社会科における資料の取扱いや活用について考察する。

学修目標

- ・小学校教育の中における教科としての「社会」の意義や役割、目標について理解を深める。
- ・社会科の学習内容の主なものについて事例的に取り上げ、理解を深める。

内容

- 1 ガイダンス 小学校社会科の変遷 社会科の目標と主な内容
- 2 低学年の生活科とのかかわり 学習内容とのかかわり
- 3 中学年社会科の学習内容 3学年・4学年
- 4 高学年社会科の学習内容 5学年・6学年
- 5 社会科学習における地理的内容（1）
- 6 社会科学習における地理的内容（2）
- 7 社会科学習における図表の活用（1） 地図の見方・活用の仕方
- 8 社会科学習における図表の活用（2） 地形図の活用の仕方
- 9 社会科学習における歴史的内容（1）
- 10 社会科学習における歴史的内容（2）
- 11 社会科学習における図表の活用（3） 年表の見方・活用の仕方
- 12 日本歴史年表を作る 歴史上の出来事を年表に表し、年表上で考える
- 13 社会科学習における公民的内容（1）
- 14 社会科学習における公民的内容（2）
- 15 まとめ

評価

課題レポートなどの提出物60点、授業への取り組み（授業のまとめ、小テスト等）40点、に

より総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書

- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍

科目名	生活		
担当教員名	清水 一豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校低学年教科の生活科がどのような学習であるかの概要を知り、ねらいや内容を具体的な実習や活動場面に触れることでより詳しく理解し、指導のポイントを習得する。また、仲間と協同して課題に取り組み、「子どもの見ている世界」に留意し、子ども理解力、授業力の向上を図る。

内容

1	「生活」の概要 予定 準備等の説明
2	子どもの生活体験・発達課題・生活科の概要
3	生活科の評価
4	身近な自然にかかわる単元例
5	キャンパスでの自然に関わる活動
6	落ち葉や実等を素材にした製作、表現活動
7	遊ぶ・交流する活動
8	身近な社会にかかわる単元例
9	自分の住んでいる街の「お気に入りマップ」の作成
10	マップを活用した伝え合う活動
11	家庭・家族にかかわる活動
12	「自分自身」にかかわる単元例
13	成長を振り返り表現する活動
14	アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム
15	体験や具体的な活動を通して育つ「自立」についてまとめる

評価

課題レポート・作品 50% 課題論文 50% 総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】 小校校学習指導要領解説 生活科編 文部科学省

【参考図書】 小学校生活科教科書 「せいかつ」 上下 光村教育図書出版
生活科事典 東京書籍 他の参考図書は授業内で提示する。

科目名	理科		
担当教員名	津吹 卓、塚田 昭一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

小学校の理科は、1・2年の生活科の内容を元にして、第3学年からの学習となる。その内容は「生物とその環境」「物質とエネルギー」「地球と宇宙」の3つの区分で構成される。中学年から高学年にかけて、体験的な活動と問題解決的な学習が重視されている。また、中学校以上の理科を学ぶための基礎となる内容なので、身に付けておく必要がある。青少年の「生き物離れ・理科離れ・科学離れ」が社会問題となって久しい。子どもたちが大人になって社会でよりよく生きていくためにも、この現象に少しでも歯止めをかけるための大事な役割を持っている。

上記3区分を、講義と実験観察を通して具体的に知識や理解を深めるとともに、生活の中での体験と もつなげ、体感としての理解も経験する。

自然科学の基本的な事実を知り、そこから法則を導くことを、児童の身体的・精神的能力の発達段階 にふさわしい内容と順序を持って、正確に理解させることが必要である。そのために、まず教員の立 場で理科の不思議さと奥深さを体験し、そこから教えることにつなげる思考と工夫を行う。

内容

1	理科教育とは何か、学生にとって教える上でどこに問題点があるのか
2	自然を知るとはどのようなことか
3	観察方法の工夫（春）
4	春の観察のまとめ方
5	春の観察の発表
6	春の観察の発表
7	電気とその性質
8	物体の運動
9	物質の性質と変化
10	物質の構造
11	地球と太陽系
12	観察方法の向上（夏）
13	春と比較した夏の観察の発表
14	春と比較した夏の観察の発表
15	まとめ

評価

実験・観察レポート（60%）、最終テスト（20%）、授業中の課題への取り組み（10%）、授業参加度（10%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編

【推薦書】未来を展望する理科教育（東洋館出版社），変わる理科教育の基礎（東洋館出版社）

科目名	理科		
担当教員名	津吹 卓、塚田 昭一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

小学校の理科は、1・2年の生活科の内容を元にして、第3学年からの学習となる。その内容は「生物とその環境」「物質とエネルギー」「地球と宇宙」の3つの区分で構成される。中学年から高学年にかけて、体験的な活動と問題解決的な学習が重視されている。また、中学校以上の理科を学ぶための基礎となる内容なので、身に着けておく必要がある。青少年の「生き物離れ・理科離れ・科学離れ」が社会問題となって久しい。子供たちが大人になって社会でよりよく生きていくためにも、この現象に少しでも歯止めをかけるための大事な役割を持っている。

上記3区分を、講義と実験観察を通して具体的に知識や理解を深めるとともに、生活の中での体験と もつなげ、体感としての理解も経験する。

自然科学の基本的な事実を知り、そこから法則を導くことを、児童の身体的・精神的能力の発達段階 にふさわしい内容と順序を持って、正確に理解させることが必要である。そのために、まず教員の立 場で理科の不思議さと奥深さを体験し、そこから教えることにつなげる思考と工夫を行う。

内容

1	理科教育とは何か、学生にとって教える上でどこに問題点があるのか
2	自然を知るとはどのようなことか
3	観察方法の工夫（春）
4	春の観察のまとめ方
5	春の観察の発表
6	春の観察の発表
7	電気とその性質
8	物体の運動
9	物質の性質と変化
10	物質の構造
11	地球と太陽系
12	観察方法の向上（夏）
13	春と比較した夏の観察の発表
14	春と比較した夏の観察の発表
15	まとめ

評価

実験・観察レポート（60%）、最終テスト（20%）、授業中の課題への取り組み（10%）、授業参加度（10%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編

【推薦書】未来を展望する理科教育（東洋館出版社），変わる理科教育の基礎（東洋館出版社）

科目名	家庭		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

家庭生活を中心に小学校5, 6年児童を対象にした教科である家庭科の概要を扱う。家庭科教育の変遷を踏まえて生活における今日的課題も取り扱う。児童の実態や実践を盛り込んでこれからの家庭科のあり方を考えると共に家庭科教育の中でも特に小学校の指導に視点を置き、小学校学習指導要領の中にどのように位置づけられているかを把握する。個人の生活に関する課題追求の他、児童が行う調理実習や被服製作の一端にも触れ理解を深める。指導法にも多様な方法があることを知る。

内容

1、家庭科教育で何を学ぶのか

本授業計画と評価、個人で準備するものなどのガイダンス

自分自身の家庭生活を振り返り課題を持ち、生活レポートにして提出する。

2、家庭科教育について

家庭科の変遷

小学校家庭科の位置づけと主な目標や内容 (小学校指導要領)

3、小学校家庭科の主な学習内容

衣食住家族生活等の領域の主な内容に触れ簡単な実践や実習を盛り込む。

～ 衣生活 (衣服の役割や縫製指導 製作実習)

～ 食生活 (調理実習、食品、栄養等の指導内容)

～ 家族生活 (上記の3領域と関連づけて扱うほかロールプレイングをグループで制作し発表を入れる)

4、生活の中の今日的課題

指導事例から消費者問題を考える。

サスティナブルな生活を目指す

できるだけ各授業初めに生活レポートの発表を入れる

実習室使用の関係で順序が入れ替わることがある

評価

生活レポート10%、毎回課題レポート75%、作品15%程度で総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校指導要領

【推薦書】こどもとおとなが一緒に読む絵本「人と食べものの話」5巻 農山漁村文科協会

【参考図書】授業内で紹介提示する。

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	岩井 雄一、吉川 知夫、阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

障害児教育が「特殊教育」から「特別支援教育」へ制度的転換する中で、従前の特殊教育制度の枠を超えて、地域の通常の学校（学級）においても、特別な支援を必要とする児童生徒への対応が求められています。本科目は、特別支援教育に関する科目の第一欄の特殊教育の基礎理論に関する科目に該当します。

本講義では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障害の特性と支援方法を論じ、関係機関との連携の在り方を学びます。

学修目標は、 特別支援教育の基礎を理解すること、 特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法を理解すること、 関係機関との連携について理解すること、の3点です。

内容

1	特別支援教育とは
2	障害児教育の歴史と発展
3	特別支援教育の法制度 学校教育法を中心に
4	特別支援教育体制の現状
5	特別支援教育における教育課程の編成
6	障害の理解と教育的支援1) 視覚障害・聴覚・言語障害
7	障害の理解と教育的支援2) 知的障害
8	障害の理解と教育的支援3) 肢体不自由・病虚弱
9	障害の理解と教育的支援4) 情緒障害・自閉症・高機能自閉症（アスペルガー症候群を含む）
10	障害の理解と教育的支援5) LD（学習障害）・AD/HD（注意欠陥/多動性障害）
11	特別支援教育の展開1) 小・中学校における校内支援と連携システム
12	特別支援教育の展開2) 特別支援学校の地域支援と連携システム
13	特別支援教育における関係機関の連携1) 保育所・幼稚園の活用とその利用
14	特別支援教育における関係機関の連携2) 医療・福祉機関の役割とその活用
15	まとめ

評価

試験による評価（70点）と中間レポートによる評価（20点）、平常の授業態度の評価（10点）により総合的に行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】使用しません。

【参考図書】「特別支援教育基礎論」吉田昌義、鳥居深雪編著、放送大学出版 「特別支援教育の基礎・基本」国立特別支援教育総合研究所著作、ジアース教育新社発行

【その他】必要に応じて随時紹介します。

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

LD・AD/HD・言語障害・情緒障害の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

実際の授業に活かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。実践例、グループによる調査、報告、ロールプレイを通して実際の・実践的に学ぶ。

児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

内容

授業計画

第1回：発達障害（言語障害・情緒障害・LD・AD/HD等）の理解

第2回：LDの理解

第3回：AD/HDの理解

第4回：高機能自閉症等の理解

第5回：アセスメントの基礎

第6回：心理検査法 <WISC K-ABC>

第7回：学力のアセスメント

第8回：読み・書きの指導

第9回：算数の指導

第10回：言語・コミュニケーションの指導

第11回：個別の指導計画の作成と実施

第12回：学校における支援体制：通常学級における支援

第13回：学校における支援体制：コーディネーターの役割

第14回：社会的自立・就労の問題

第15回：保護者との連携・地域との連携

評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加度の評価（10%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

特別支援教育の理論と実践

金剛出版

「自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ2 学齡期編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編」社団法人 日本自閉症協会

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

LD・AD/HD・言語障害・情緒障害の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

実際の授業に生かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。また、実際の指導例、グループによる調査、報告、ロールプレイを通して実際の・実践的に学ぶ。

児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

内容

授業計画

第1回：発達障害（言語障害・情緒障害・LD・AD/HD等）の理解

第2回：LDの理解

第3回：AD/HDの理解

第4回：高機能自閉症等の理解

第5回：アセスメントの基礎

第6回：心理検査法 <WISC K-ABC>

第7回：学力のアセスメント

第8回：読み・書きの指導

第9回：算数の指導

第10回：言語・コミュニケーションの指導

第11回：個別の指導計画の作成と実施

第12回：学校における支援体制：通常学級における支援

第13回：学校における支援体制：コーディネーターの役割

第14回：社会的自立・就労の問題

第15回：保護者との連携・地域との連携

評価

試験による評価（70%）中間レポートによる評価（20%）平常の参加度の評価（10%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

特別支援教育の理論と実践 金剛出版

「自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ2 学齡期編」社団法人 日本自閉症協会

「自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編」社団法人 日本自閉症協会

科目名	学校関係法規特別講義		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「専門科目」の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」であり、選択科目となっている。

科目の概要

この科目は、1年次「学校関係法規」または、「学校制度論」の学修を踏まえている。

さらに、学校現場で実際に行われている学校管理・運営や教育指導等の中に、どのような法律や規則が どのようにかかわっているかを、具体的な事例を通して追究していく。

学修目標

- 1 学校教育は、多くの法律を基盤にし、成り立っていること・運営されていることなどを、具体的に理解する。
- 2 学修した内容をノートにまとめたり、レポートしたり、それらをもとに討論しあったりする。
- 3 これらの学修を通して、そのことに関して自分の考えや意見を持ち、自己の視野を広げる。

内容

1	ガイダンス。教育関係法規の関連について
2	教員の定数に関わる法規
3	学級編制に関わる法規
4	教育課程に関する法規
5	学校管理に関する法規
6	学校運営に関する法規
7	教職員の服務に関する法規
8	児童生徒の保健・安全に関する法規
9	教員免許に関わる法規
10	学校の組織・運営に関する法規
11	教育行政にかかわる法規
12	教職員の身分に関する法規
13	教員の研修に関する法規
14	教員の給与に関する法規
15	児童生徒の就学に関する法規

評価

授業への取り組み（小まとめ・小テスト等）60点、課題レポート等の提出物40点などにより、総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『必携 小六法』 杉原 誠四郎 監修 共同出版

『教育法規便覧』 窪田真二・小川友次 編 学陽書房

科目名	学校関係法規特別講義		
担当教員名	黒瀬 任通		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「専門科目」の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」であり、選択科目となっている。

科目の概要

この科目は、1年次「学校関係法規」または、「学校制度論」の学修を踏まえている。

さらに、学校現場で実際に行われている学校管理・運営や教育指導等の中に、どのような法律や規則が どのようにかかわっているかを、具体的な事例を通して追究していく。

学修目標

- 1 学校教育は、多くの法律を基盤にし、成り立っていること・運営されていることなどを、具体的に理解する。
- 2 学修した内容をノートにまとめたり、レポートしたり、それらをもとに討論しあったりする。
- 3 これらの学修を通して、そのことに関して自分の考えや意見を持ち、自己の視野を広げる。

内容

1	ガイダンス。教育関係法規の関連について
2	教員の定数に関わる法規
3	学級編制に関わる法規
4	教育課程に関する法規
5	学校管理に関する法規
6	学校運営に関する法規
7	教職員の服務に関する法規
8	児童生徒の保健・安全に関する法規
9	教員免許に関わる法規
10	学校の組織・運営に関する法規
11	教育行政にかかわる法規
12	教職員の身分に関する法規
13	教員の研修に関する法規
14	教員の給与に関する法規
15	児童生徒の就学に関する法規

評価

授業への取り組み（小まとめ・小テスト等）60点、課題レポート等の提出物40点などにより、総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『必携 小六法』 杉原 誠四郎 監修 共同出版

『教育法規便覧』 窪田真二・小川友次 編 学陽書房

科目名	表現活動概論		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つで、選択科目です。

3年生を対象とし、これまでに「表現活動」を選択した学生も、まだ経験していない学生も歓迎します。

朗読・歌・身体表現からなる作品に取り組みます。クラス内で総合表現の作品を創り上げるだけでなく、発表の機会を持つことと、他学年（2年生）と混合での取り組みも目指します。表現活動を履修したことのある学生は、今度は指導する立場になったことをイメージしながら、さらに作品と表現を研究することができます。

教師を目指す学生にとって「声」と「表現力」は大切です。

- ・全身を使って、豊かで表情のある声を自分の中から引き出すこと
- ・作品を味わい、イメージをふくらませていく過程を体験すること
- ・仲間と考えをぶつけ合い、磨き合う関係を築くこと
- ・練習を通して得たものを人に伝える喜びを知ること

これがこの講座の目標です。

内容

1	作品と出会う
2	歌の練習を中心に1 - 脱力
3	朗読の練習を中心に1 - 呼吸法
4	重唱の練習を中心に1 - ハーモニーの愉しみ
5	歌の練習を中心に2 - 作品解釈
6	朗読の練習を中心に2 - 声の表情・表現
7	重唱の練習を中心に2 - 互いに聴くこと
8	身体表現を考える1 - 身体の意識
9	身体表現を考える2 - 構成・他者との関わり
10	表現活動の指導法を考える1 - 言葉の重要性
11	表現活動の指導法を考える2 - 見ること・聴くこと
12	他学年との取り組み1 - 教師の表現力
13	他学年との取り組み2 - 共に学ぶ
14	発表
15	まとめ

評価

教材解釈30点 / 創造性20点 / 表現力20点 / 提案力10点 / 交渉力10点 / 協調性10点を総合して評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材：教室で配布します。

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（斎藤喜博 / 詩、近藤幹雄 / 曲）「利根川」に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。また、夏に行われる免許状更新講習や新座市3年経験者教員研修会においても、発表する機会を持ちます。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）を総合して評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	表現活動（応用）		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品「かたくりの花」 横須賀薫・詩、梶山正人・曲 に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。表現活動概論（3年後期）の受講生がみなさんを指導する場面をつくります。先輩たちとともに、表現活動の指導法について学びあって欲しいと思います。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

前期において「表現活動（基礎）」を受講した人がいた場合には、内容が変わります。

下記は一般的な内容です。実際には、参加メンバーに応じて変更します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）を総合し

て評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	学習指導と学校図書館		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

司書教諭課程は「学校図書館」そのものについて学ぶ科目と、司書教諭として児童生徒に対する「指導法」を学ぶ科目に大別できる。本講は児童生徒の「メディア活用能力育成のための指導」の具体的な方法を学ぶ科目である。学習情報センターとしての学校図書館機能を発揮する上で、司書教諭 5 科目のうち最も中核的な科目である。

科目の概要

学校図書館は児童生徒の日々の学習活動、および教員の教育活動を支援し推進するという重要な任務を持っている。学校図書館の積極的・効果的な利用を図る上で、児童生徒に対し、図書館および各種メディアを活用し、自主的な学習能力・態度を育成するための指導が必要である。そのための指導原理と方法を具体的に・実践的に体得し、あわせて教員に対する支援と協力についての理解を深める。

学修目標

- 1) 学習活動における学校図書館の役割と機能を理解する。
- 2) 学校図書館の各種メディアの特性と活用の方法を体得する。
- 3) 指導内容の具体的な理解を図る。
- 4) 児童生徒の発達段階に応じた指導計画とその展開方法を理解する。
- 5) 教員の教育活動への支援方法を考える。

内容

1	教育課程の展開と学校図書館の役割
2	主体的学習とメディア活用能力
3	メディア活用能力育成指導の内容と指導計画
4	指導内容の探索 (図書館での演習)
5	指導内容の具体的検討
6	指導内容の確認と確定 (発表・討議)
7	指導計画作成のための原理
8	指導内容の体系化 (グループ討議)
9	指導内容の体系化 (討議結果の発表)
10	メディア活用能力育成指導の年間計画作成
11	メディア活用能力育成指導の方法
12	特定学年の 1 単位時間内での指導案作成
13	集団指導・個別指導の意義とその展開
14	メディア活用能力育成の個別指導と情報サービス
15	教員に対する支援と働きかけ

評価

課題についての調査および発表30%、メディア活用能力育成指導のための指導案作成40%、理解度確認のための論述レポート30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に必要に応じて資料・プリントを配布する。

科目名	学級経営と教科指導		
担当教員名	小城 正重		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

学級は、児童にとって所属することを拒否できない運命集団であり、一日の大半を過ごす場である。学級担任として、各々の児童が学校生活に展望が持てる指導のあり方を考察する。

学級経営の基盤は教科の指導においてない。現場の教師が作成した具体的な資料をもとに、学校現場に密着した実践的な考察をする。担任として、自信を持って児童や保護者に接することができるようにしていく。児童の身になり共感的に考え、共に生きようとする人間的な教員の姿を求める。

問題解決力を身につけ、多様化する子どもや保護者達に適切に対応できる力を育成する。

内容

1	学校教育目標の実現を目指し学級指導目標実現のための具体的方策の立案。教育実習について
2	学級教育目標設定の手順の例。教育実習生として心掛けること、気をつけること
3	学級経営案の作成 (学級目標、学級経営方針、学級の実態把握)
4	学級経営の計画 (教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導)
5	学級経営の計画 (生徒指導、健康安全指導、教室環境づくり、家庭との連携)
6	学級経営の計画 (学級事務の処理、学級経営の評価、参加したくなる授業参観・懇談会)
7	各種表簿、観察を通じて、児童生徒の健全育成や学校生活の充実を図る。
8	学力の特徴や傾向、得意教科や不得意教科、つまずきなど実態の把握方法
9	教室の物的環境の整備と管理、毎日の生活や学習活動のよりよい環境構成
10	学習評価、諸表簿作成などの事務処理の実際
11	学級経営に関する保護者への通知、学級通信や懇談会等での連携の方法
12	学級の実態のとらえ方
13	学級集団の特性や傾向をつかむ (ささまざまな問題への対処の仕方)
14	家庭および地域の様子の把握
15	振り返りとまとめ

評価

提出物 (30%)、小テスト (30%)、試験 (30%)、学習態度・積極性・発言等 (10%) によって総合的に評価する。

60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

著 者 名 小城 まさえ

書 名 クラスづくり12か月

出版社名 学研

【推薦書】

なし

科目名	教職基礎演習		
担当教員名	高橋 京子、廣坂 多美子、増田 吉史、狩野 浩二 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 小学校教員の職務の実際や担任教師の動きを、演習を通して、その実際の様子を知る。

科目の概要 小学校教員の職務の基礎的な事項について、課題を分担し、調べることにより、理解を深める。行事や集会などの計画作成や模擬指導を行うことにより、指導者の立場から学校を見直す。

学修目標 計画書を作成したり、模擬指導を行うことを通し、小学校教員の職務を理解する。教職に対する適性について判断基準を得る。

内容

前期

- 1 オリエンテーション
- 2 教師の仕事について
- 3 小学校の組織について
- 4 小学校の教員の仕事・組織についてまとめ
- 5~7 グループワーク 特別活動について
- 8 勤労生産活動の体験 (サツマイモ植え付け)
- 9~12 模擬指導 集会活動
- 13~14 学校ボランティア活動について
- 15 勤労生産活動の体験 (サツマイモ除草・蔓がえし)

後期

- 1 学校ボランティア活動の振り返り
- 2~3 グループワーク 学校行事について
- 4 勤労生産活動の体験 (サツマイモ収穫)
- 5~9 模擬指導 ~ 体育的行事
- 10~14 模擬指導 ~ 文化的行事
- 15 春の学校ボランティア調整

評価

計画書作成や模擬指導など (60%)、試験 (40%) によって総合的に評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校学習指導要領解説 総則編

【推薦書】なし

科目名	教職発展演習		
担当教員名	山本 悟、津吹 卓、狩野 浩二、増田 吉史 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学校教育の現状や課題を把握し、教育に対する考えを深める。体験活動については、模擬指導を通し、学校教育における位置や、対応の仕方を理解する。

科目の概要

講義を受けると共に、主体的に事例を調べ、発表しあう中で、表現力を高め、理解を深める。後期を集中講義とし、集団宿泊行事の場面で模擬指導を行い、体験学習の指導の進め方、配慮事項を学ぶ。

科目の目標

- ・体験活動の事例を調べ、模擬指導を通し、体験活動の進め方、配慮事項について理解を深める。
- ・学習指導をめぐる諸課題に関心を持ち、その現状を調べ、自己の考えをもとめる。
- ・学習指導における課題をについて、バズセッション等により意見交換をし、理解を深める。

内容

前期

- 1 回目 班編成。年間の活動計画の確認。
- 2 回目 集団宿泊的行事の位置付けについて調べる。
- 3 回目 自然体験活動の内容、指導方法を調べる。
- 4 回目 集団宿泊的行事の生活指導、安全管理について調べる。
- 5 回目、6 回目 集団宿泊的行事計画書作成
- 7 回目 模擬指導：集団宿泊的行事の事前指導
- 8 回目～15回目

現地での模擬指導

- ・宿泊を伴う行事の運営
- ・宿泊を伴う行事での生活指導・健康管理
- ・自然体験活動の指導：飯ごう炊飯
- ・自然体験活動の指導：登山
- ・自然体験活動の指導：野外活動
- ・自然体験活動の指導：キャンプファイヤー
- ・移動の交通機関での安全管理

後期

- 1 回目、2 回目 集団宿泊的行事の実践報告、まとめ
 - 3 回目 「学習指導要領」より課題を設定し、調べる
 - 4 回目～14回目 バズセッションによる討議を通し、考えを深める
- ・基礎的な知識・技能の定着
 - ・思考力・判断力・表現力の育成
 - ・言語活動の充実
 - ・家庭学習の習慣化
 - ・伝統や文化に関する教育
 - ・外国語活動
 - ・道徳教育
 - ・体験活動
 - ・環境教育
 - ・食育

・特別支援教育

15回目 まとめ

評価

計画書作成や模擬指導など(50%)、レポート・試験(50%)によって総合的に評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「学習指導要領」文部科学省

「小学校学習指導要領解説 特別活動」文部科学省

【推薦書】授業の中で紹介する。

科目名	教職応用演習		
担当教員名	宮川 保之、岡上 直子、綾井 桜子、増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教職を目指す受講者のための選択科目である。教職発展演習の学修の上に、さらに小学校におけ今日的な教育課題を題材に、受講者自身の教育に対する見方・考え方を広げ深める中で、教育的信念の確立をねらうものである。

科目の概要

小学校における今日的な教育課題を取り上げ、その原因や対応について、ブレーストーミングやKJ法などを使い考えを深める。相手に説明し理解してもらえることを身に着けるために、課題に対して十分な知識をつけた上で、文に起こしたり話をしたりする。

学修目標

- ・ 今日的教育課題をより深く理解する。
- ・ 教員としての学習指導や生徒指導の実践的指導力を高める。
- ・ 自己の特徴や考えを、文章や言葉などで表現したり、相手とうまくコミュニケーションできたりする教師としての表現力を高める。

内容

1 前期 オリエンテーション

「生徒指導提要」をもとに課題設定をし調べ発表し理解を深める。

2 ~ 1 4 課題別にブレーストーミング学習を行う。

例・児童理解

- ・安全教室
- ・児童虐待 等

1 5 まとめ

1 6 後期 オリエンテーション

学校の抱える今日的な課題を調べ意見交換をし、理解を深める。

1 7 ~ 2 9 課題別にKJ法学習を行う。

例・開かれた学校

- ・個に応じる指導
- ・小1プロブレム
- ・習熟度別学習 等

3 0 まとめ

評価

課題レポート・提出物（60点）、授業への取り組み・小テスト（40点）などにより総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考書

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 各種審議会等からの答申文 等
- ・ 都道府県・政令市が掲げる教育施策・求める教師像 等

科目名	介護等体験事前事後指導		
担当教員名	狩野 浩二、岩井 雄一、佐藤 陽、津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

義務教育学校（小学校・中学校）の教員になるために必要となる「介護等体験」について、事前指導と事後指導を行う科目です。集中欄で登録し、4月～5月にかけての時期に昼休みや5時限目などを活用して指導します。

介護等体験で体験する「福祉施設体験5日間」と、「特別支援学校体験2日間」について、先輩たちが経験した話を聞いたり、福祉の専門性、障害児教育の専門性について、各専門の先生方から話を聞いたりし、介護等体験が実り多いものになるよう勉強します。

高齢者福祉や児童福祉、障害者福祉など、さまざまな福祉施設での体験を通して、福祉の心を養います。また、特別支援学校での体験を通して、肢体不自由児、知的障害児、視覚障害児の他、重複障害児など、心身に障害のある子どもたちについての理解を深めます。

内容

以下の内容を学習します。

- 事前指導、社会福祉施設及び、特別支援学校についての学修
- 介護等体験（福祉施設5日間、特別支援学校2日間）7日間
- 事後指導、体験ノートの執筆と提出

それぞれ、4月のガイダンスにおいて講義日程、体験機関、体験場所等について説明します。

教職支援課（教職課程センター）の掲示等をよくみておいてください。

評価

事前事後指導における受講態度（3割）、体験への参加（3割）、事後報告書の内容（6割）を総合して、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

次のテキストを使用します。各自購入し、事前指導に参加してください。

増田雅暢 執筆代表 浦野正男・櫛田匠・磯彰格・森好明 著『第2版よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会出版部

全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブック フィリア [新学習指導要領版]』ジヤース教育新社

科目名	外国語活動		
担当教員名	島田 美織		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The aim of this course is to give students a general introduction to teaching English to young children in Japan. Students will acquire basic vocabulary, skills to create materials and design lessons, and the way to introduce English words/phrases to young learners of English.

内容

The students will work with textbooks and other materials which have been used successfully in Japan to develop the speaking, listening, and pre-writing skills in English. Fun and easy-to-use activities, such as games and songs to teach the skills will be introduced and practiced, as well as basic classroom English to develop teacher confidence. The course will be taught in English and limited to "20 students" at the most. (最大定員 20名)

Week 1	Greeting the classroom ready (Lesson 1)
Week 2	Greeting learners (Lesson 2)
Week 3	Planning lessons (Lesson 3)
Week 4	Using teaching aids (Lesson 4)
Week 5	Teaching listening (Lesson 5)
Week 6	Leading pronunciation practice (Lesson 7)
Week 7	Facilitating speaking (Lesson 8)
Week 8	Introducing vocabulary (Lesson 9)
Week 9	Beginning reading (Lesson 10)
Week 10	Presenting a story-reading lesson (Lesson 11)
Week 11	Review
Week 12	Preparation for group presentations
Week 13	Rehearsal
Week 14 & 15	Group presentations

評価

Evaluation will be based on participation (30%), homework assignments (20%) and final presentation (50%). Excellent attendance is required. Tardiness three times will equal an absence.

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

Teaching English to Young Learners (Compass publishing)

科目名	外国語活動		
担当教員名	島田 美織		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The aim of this course is to give students a general introduction to teaching English to young children in Japan. Students will acquire basic vocabulary, skills to create materials and design lessons, and the way to introduce English words/phrases to young learners of English.

内容

The students will work with textbooks and other materials which have been used successfully in Japan to develop the speaking, listening, and pre-writing skills in English. Fun and easy-to-use activities, such as games and songs to teach the skills will be introduced and practiced, as well as basic classroom English to develop teacher confidence. The course will be taught in English and limited to "20 students" at the most. (最大定員 20名)

Week 1	Greeting the classroom ready (Lesson 1)
Week 2	Greeting learners (Lesson 2)
Week 3	Planning lessons (Lesson 3)
Week 4	Using teaching aids (Lesson 4)
Week 5	Teaching listening (Lesson 5)
Week 6	Leading pronunciation practice (Lesson 7)
Week 7	Facilitating speaking (Lesson 8)
Week 8	Introducing vocabulary (Lesson 9)
Week 9	Beginning reading (Lesson 10)
Week 10	Presenting a story-reading lesson (Lesson 11)
Week 11	Review
Week 12	Preparation for group presentations
Week 13	Rehearsal
Week 14 & 15	Group presentations

評価

Evaluation will be based on participation (30%), homework assignments (20%) and final presentation (50%). Excellent attendance is required. Tardiness three times will equal an absence.

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

Teaching English to Young Learners (Compass publishing)

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

21世紀を迎えて、教育環境の変化、特に情報通信ネットワーク、デジタル機器などマルチメディアの発達と普及は目覚ましく、教育現場におけるメディア環境を一変させようとしている。この変化は、単に新しいメディアが視聴覚教育に加わるというものではなく、メディアの役割のみならず、教育そのものの変革を迫っている。メディアの発達は、教育に強い影響を及ぼすのみならず、新たな教育課題を発生させる。その最大の課題は、これまで学校、家庭、社会といった子どもの実体験的空間の中で考えられてきた教育についての考え方の修正である。教師として、メディアそのものの理解を求めるメディア・リテラシーの習得が必要不可欠である。

ICTを利用して問題解決できるようになること。メディア・リテラシーを身につけること。

内容

1	情報とは何か（情報研究の歴史）
2	情報概念（情報の5つの特性）
3	コミュニケーションと教育メディア（文字・ことば・文章、情報のデジタル化）
4	情報化の進展と情報教育
5	情報教育の考え方（学校教育における位置づけ）
6	情報教育の目標（3本柱）
7	小学校の各教科における情報教育
8	学校教育における視聴覚メディアの活用
9	インターネットとマルチメディアの教育利用
10	メディア・リテラシーとは
11	子どもの学習活動と情報教育の実践（ICT活用能力）
12	情報モラルと情報セキュリティ
13	学生によるプレゼンテーション
14	学生によるプレゼンテーション
15	まとめ

評価

授業中に行う課題に対する評価（30%）、課題レポートに対する評価（30%）、テスト（30%）、授業への参加度（10%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず。毎回の授業において、印刷資料を配布する。

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

人間は自然環境に適応すると共に、自然環境に働きかけて新たな環境を創り出す。この人間の営みを、自然との対比で「文化」と呼ぶ。さて人間は、子どもと共に生きることに深い喜びを感じ、長い歴史の中で「子どもの文化」を築き上げてきた。子どもは、文化という土壌の上に生み落とされ、成長を遂げてゆく。とはいえ、子どもも文化の作り手、伝え手ともなりうる。「児童文化」においては、子どもと大人が共に織りなす政の営みという視点から、生を共有する仲間が共に創造した文化について探求することを目指す。

内容

- 第1回 児童文化とは何か
- 第2回 子どもの成育儀礼にみる子育ての文化
- 第3回 年中行事と子どもの生活
- 第4回 子どもの伝承遊び
- 第5回 子どもの衣服・食事・部屋
- 第6回 情報化社会と子ども
- 第7回 伝統玩具（人形も含める）と子ども
- 第8回 教育玩具、キャラクター玩具
- 第9回 遊具、公園、遊園地
- 第10回 わらべ唄、唱歌、童謡
- 第11回 おはなしの歴史的変遷（昔話、口演童話、ストーリー・テリングなど）
- 第12回 紙芝居の世界
- 第13回 人形劇、ペープサート、パネルシアターなど
- 第14回 絵本の世界
- 第15回 幼年文学の世界

評価

授業への取り組み方20%、試験80%によって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『児童文化 子どものおあわせを考える学びの森』 皆川美恵子他著 ななみ書房

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、小学校教諭一種免許状の取得に必要とされる「教科又は教職に関する科目」のうちの一つです。

講義では、いじめ、不登校、学力問題など私たちの身近な教育問題を含め、学校および教育をめぐる現状を社会的な視点から幅広く学びます。

学修目標は次の三つです。 いじめ、不登校、学力問題についての今日の状況を客観的に把握する そのために必要な資料、文献を読み、理解する 教育問題を複眼的に考察する。

内容

1. イントロダクション 教育を社会の眼差しで見るとは
2. 教育と社会化 - しつけと社会化、学校と方法的社会化
3. 現代社会と教育問題 - いじめの社会問題化
4. 現代社会と教育問題 - いじめの予防・解決
5. 現代社会と教育問題 - 不登校
6. 現代社会と教育問題 - 小1プロブレム・中1ギャップ
7. 中間発表
8. 学力低下の実態
9. 学習意欲の問題
10. 学力問題への各国の取り組み
11. 学力問題への各国の取り組み
12. 学力問題と階層
13. 学歴社会の変容
14. 教育・学歴・資格
15. まとめ

評価

レポート (50点)、課題発表 (30点)、授業への参加度 (20点) による評価とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】 苅谷剛彦ほか『新版 教育の社会学<常識>の問い方、見直し方』有斐閣

【推薦書】 森田洋司『いじめとは何か 教育の問題、社会の問題』中央公論新社

森田洋司『「不登校」現象の社会学』学文社、第2版

苅谷剛彦『教育と平等 大衆教育社会はいかに生成したか』中央公論新社

滝川一廣『学校へ行く意味・休む意味』日本図書センター

【参考図書】 苅谷剛彦『学校って何だろう - 教育の社会学入門』筑摩書房

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

児童は理科が大好きである。しかし現場の教師に理科実験を敬遠する傾向が見られる。そこで、身近な道具を使って子どもたちでもできる実験を工夫・開発し、実際に体験することを通して、理科の楽しさを実感することをねらいとする。

理科の4分野（物理，化学，生物学，地学）に関して，小学校理科で扱う内容に限定せず，理論的な裏づけや根拠を理解するということより，楽しいと思われるテーマに取り組んでみる。

内容

1	リニアモーターカーを教室に走らせよう（電流の働きを調べる）
2	動くおもちゃを工夫しよう。（おもりの働き）
3	ペットボトルで水ロケットを作ろう
4	音や光の実験箱（物に光を当てたり，物で音を出したりしてみよう）
5	焚き火の名人（原始人の火おこし術から，木がよく燃える仕組みを考えよう）
6	物の溶け方（きれいな結晶を作ろう）
7	空気鉄砲や水鉄砲を作ってみよう
8	ガラスビーズで顕微鏡を作ろう（身近な微生物）
9	魚の食べ物の通り道を調べよう
10	植物や動物の育ち方（継続観察）
11	波の伝わり方（縦波、横波）
12	高いビルほど激しく揺れて危険だ
13	川はどうして蛇行するのか（大地のつくりとでき方）
14	星の動きを確かめよう（手作りプラネタリウム）
15	まとめ

評価

毎回の課題に対する提出されたレポート（60%）、授業参加意欲・授業態度（20%）、最終レポート（20%）などから、総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】資料を適宜配布する

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	三好 節		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校教員を目指す受講者のための選択教科である。

科目の概要

小学校国語科 (2 年・3 年・4 年) の教材を中心に、教材研究を生かし、単元構成を考えながら学習指導案を作成し、模擬授業 (発問の在り方・板書の仕方・ノート指導の在り方等) を行い、小学校現場における国語科授業に直接役立たせるものである。

学修目標

小学校国語科授業の実践的技能を身につける。

内容

- 1 小学校国語科授業の在り方
- 2 小学校国語科授業の問題点
- 3 第2学年国語科教材研究 (1 教材)
- 4 第2学年国語科学習指導案作成 (1 教材)
- 5 第2学年国語科模擬授業と評価
- 6 第2学年国語科模擬授業と評価
- 7 第3学年国語科教材研究 (1 教材)
- 8 第3学年国語科学習指導案作成 (1 教材)
- 9 第3学年国語科模擬授業と評価
- 10 第3学年国語科模擬授業と評価
- 11 第4学年国語科教材研究 (1 教材)
- 12 第4学年国語科学習指導案作成 (1 教材)
- 13 第4学年国語科模擬授業と評価
- 14 第4学年国語科模擬授業と評価
- 15 小学校国語科授業の在り方のまとめ

評価

ミニレポート (3 0 %)、模擬授業への参加意欲等の状況 (3 0 %)、最終レポート (4 0 %)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

小学校学習指導要領解説 国語科 (文科省) 東洋館出版、 文科省検定済教科書 光村図書 第2学年用上下、第3学年用上下、第4学年用上下

科目名	教育学特別講義		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもという存在は、日本の伝統的社会においては、多くの人々による関わり合いや見守りの中で成育するものと考えられていた。家庭の中で抱え込むのではなく、社会の中でこそ育つ公的な存在だったのである。よって子どもを育てるには、可愛がるだけでなく「躰」が重要視されたり、家族以外の他者の手、知恵、力添えも必要だと考えられてきた。

かつての日本人が、どのように子どもの社会化を促してきたのか。子どもを家庭から社会へと目を向かわせる文化のしくみについて講義していく。

内容

第1回 プロローグ 子どもと社会の境界が曖昧になっている現代社会

第2回 大人になるための多様な文化の仕掛け

第3回 児童文化からみた仕掛けの多様性

第4回 地獄・極楽の絵解きに見る教育

第5回 双六遊びにみる人生教育

第6回 ことわざ、カルタによる躰

第7回 格言、寸言、箴言、かぞえ歌・いろは歌などによる躰

第8回 躰の絵本の系譜について

第9回 おばけの話

第10回 赤ちゃん絵本に見る躰

第11回 幼年絵本に見る躰

第12回 いたずら者、怠け者、悪童物語による躰

第13回 「三年寝太郎」など日本の怠け者の系譜

第14回 「ピノキオの冒険」など西欧の悪童物語の系譜

第15回 エピローグ 個人と社会の結びつき方について

評価

授業中の発表20%、レポート80パーセントによって成績をつける。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業のなかで、適宜、推薦書を明示する。

科目名	教育学特別講義		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

これからの小学校普通教室には、構内ネットワーク (LAN) が敷設され2台のPCと1台のプロジェクタが配備されるだろう。さらに黒板の横に電子情報ボードが置かれるかもしれない。これらのITを活用して子どもたちに「分かる授業」をやり、学力を伸ばすことが求められている。そこで、本演習ではITをどの教科でもどの授業でも活用して「分かる授業」ができるIT活用授業マイスターを養成することをねらいとする。

ICTを活用できるようになること、ICTを活用して「分かる授業」を実施できる能力を身につける。ICTを活用した教材を作成できるようになること。

内容

1	これからの教員、これからのIT活用授業
2	IT活用授業の特徴、IT活用と学力
3	普通教室でのIT活用のための準備
4	実践しやすさから見たIT活用授業
5	ものを写して動きや操作を教える授業の設計
6	教科書の写真を大写して吟味する授業の設計
7	デジタルカメラを教材提示装置に利用した授業
8	パワーポイントで教材作成
9	理科実験室で効果的なIT活用をした授業の設計
10	電子情報ボードでデジタルコンテンツを活用した授業
11	創造的な図工授業を実現するIT活用授業の設計
12	低学年でもできるデジタルカメラとテレビを用いたプレゼンテーション学習
13	校内学習センターや公立教育センターによるコンテンツ利用の授業設計
14	IT活用スキルのチェックリスト
15	まとめ

評価

授業中に行う課題に対する評価 (30%)、継続観察レポートに対する評価 (30%)、テスト (30%)、授業への参加度 (10%) を総合して評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使用せず。毎回の授業において、印刷資料を配布する。

科目名	教育学特別講義		
担当教員名	三好 節		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教員を目指す受講者のための選択教科である。

科目の概要

小学校の書写指導（1年・3年・5年）の在り方を中心に教材研究をし、硬筆書写の入門期（鉛筆の持ち方・ひらがなの書き方等）の指導の在り方、毛筆書写の入門期（筆・硯・文鎮等の道具の扱い方）の指導の在り方、その他の学年における指導の在り方（筆づかいの在り方・字配り等）を実技を含めて学び、小学校現場における書写指導に直接役立たせるものである。

小学校書写指導の実践的技能を身につける。

内容

- 1 小学校書写指導のねらいとその指導
- 2 入門期（小学校1年）の硬筆指導の在り方と実技
- 3 平仮名の書き方とその指導（実技含む）
- 4 平仮名の書き方とその指導（実技含む）
- 5 漢字の書き方とその指導（筆順指導の在り方）（実技含む）
- 6 入門期の毛筆指導の在り方（準備、片付けの仕方、評価の仕方等）
- 7 起筆・終筆・横画・縦画を中心とした指導と実技
- 8 はらい・はねを中心とした指導と実技
- 9 おれ・曲がりを中心とした指導と実技
- 10 文字の組み立て方を中心とした指導と実技
- 11 文字の組み立て方を中心とした指導と実技
- 12 字配りを中心とした指導と実技
- 13 字配りを中心とした指導と実技
- 14 小学校書写指導案の作成の仕方
- 15 小学校書写指導の在り方のまとめ

評価

ミニレポート（20%）、実技（60%）、最終レポート（20%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領解説 国語科（文科省）東洋館出版、文科省検定済教科書 光村図書 1年教科書・3年教科書・5年教科書

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、書く指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 (60 点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40 点) という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、書く指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 (60 点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40 点) という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、書く指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 (60 点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40 点) という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、書く指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 (60 点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40 点) という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	1,3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、書く指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 (60 点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40 点) という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、書く指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 (60 点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40 点) という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、書く指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 (60 点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40 点) という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、書く指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 (60点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40点) という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、書く指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 (60 点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40 点) という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、書く指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 (60 点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40 点) という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	宮川 保之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、書く指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 (60 点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40 点) という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、書く指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進めるした準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価 (60 点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40 点) という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度、推薦して提示する。